

218521

滋賀縣伊香郡教育會編纂

滋賀縣伊香郡誌

滋賀縣伊香郡教育會

伊香郡誌序

余曩日任此

地ニ蒞ムヤ郡誌ノ編纂シタル

常ニ遺憾ニ堪

ヘザリキ今ヤ本郡教育會委員諸氏ノ

筆ニ依リ編纂始

メテ成ル緋キテ焉レテ閱スルニ凡ソ

山川風土ヲ變遷

ヨリ以テ人物殖産交通等ノ沿革ニ至

ルヲ採摭收拾且ツ

編次能ク其ソ體ヲ得郡下古今ノ

状態ヲシテ一目瞭然

タラシム是レ當ニ余ガ多年ノ渴

望ヲ醫スルノミナラズ

亦以テ郡教育ニ裨益スル所實

ニ尠少ナラザルヲ信ズ

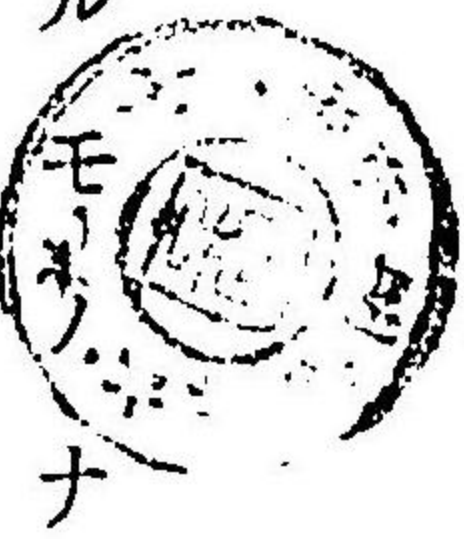
委員諸氏ノ勞洵ニ多ナリト謂

フベシ其ノ梓ニ上サント

スルヲ聞キ一言ヲ卷首ニ記

ス

明治三十五年三月下浣



滋賀縣伊香郡教育會長

正七位 林田民次郎

緒言

明治三十三年一月本郡教育會常集會ニ於テ郡誌編纂ノ議成リ會長ハ予輩ヲ以テ編纂委員ニ指定セラル予輩其ノ資其ノ任ニ當ルニ足ラザルノ故ヲ以テ之ヲ辭スレドモ聽カレズ已ムコトヲ得ズ承諾スルコト、ナリス

是ニ於テ同年七月下旬初メテ委員會ヲ開キ誌料蒐集ノ方法ヲ講シ先ヅ以テ其ノ材料ノ蒐集ヲ郡衙ニ請囑シタルニ郡衙ハ同年九月十月ノ交ニ於テ郡内各小學校長ヨリ材料ヲ徵收シテ交付セラ

ル予輩之ニ依リテ漸ク編纂行程ノ第一歩ヲ占ムルヲ得爾來或ハ村落ニ或ハ社寺舊家等ニ就キ其ノ記録口碑ヲ探知シ以テ材料ノ蒐集ニ勉メタリシカ隨テ編スレバ隨テ誌料ノ不足ヲ感ゼシメシト予輩孰レモ職ヲ公ニ奉スルノ故ヲ以テ從事意ノ如クナラズ或ハ休日ニ或ハ夜間ニ此處彼處ニ會合スルコト十數回而モ編纂ノ全キヲ得ザルヲ以テ尙時日ヲ重テ完成ヲ希望スト雖脫稿スベキ

ノ期既ニ迫リ徒ニ來年アリト云フコトナ得ズ因テ既集ノ材料ヲ  
按排シテ爰ニ其ノ責ヲ塞グコト、ナセリ要スルニ本誌ノ成ル公  
私匆忙ノ間ニ於テ予輩ノ謫劣ヲ以テス豈敢テ完璧ト言ハンヤ唯  
小學教授上ノ資料ニ供センコトヲ庶幾フノミ若夫錯誤遺漏アラ  
ン乎則テ識者ノ垂教ヲ俟テ漸次校訂増補以テ其ノ大成ヲ期セン  
トス看者幸ニ焉レヲ諒セヨ

附言

本誌ヲ編纂スルニ當リテ其ノ成ヲ助ケラレタルハ郡衙吏員及各小  
學校長諸君ナリ爰ニ特筆シテ其ノ勞ヲ謝ス

明治三十五年三月

編纂委員 森田讓  
川崎泰英  
小谷源助

### 凡例

- 一 本誌ハ主トシテ郷民ニ本郡古今ノ體勢及縣下ニ於ケル地位  
トナ知ラシメ兼テ實業上ノ參考ヲラシメンコトヲ勉メタル  
ヲ以テ漫リニ無味ナル名詞及煩雜信僣ナル文飾ヲ用ヒズ殊  
ニ緊要ナル事項ノ統計ヲ加ヘタリ
- 一 又本誌ハ小學校教科書ノ參考ニ供センガ爲メ殊更ニ加ヘタ  
ル事項少カラズ
- 一 スベテ統計ニ係ルモノハ最近ナルモノヲ參酌セリ
- 一 本誌ニ引用セシ圖書ハ凡十數種ニ涉タレドモ或全文ヲ抜キ  
タルモノ、外ハ其書名ヲ註セズ

ノ期既ニ迫リ徒ニ來年アリト云フコトヲ得ズ因テ既集ノ材料ヲ  
按排シテ爰ニ其ノ責ヲ塞グコト、ナセリ要スルニ本誌ノ成ル公  
私匆忙ノ間ニ於テ予輩ノ謫劣ヲ以テス豈敢テ完璧ト言ハンヤ唯  
小學教授上ノ資料ニ供センコトヲ庶幾フノミ若夫錯誤遺漏アラ  
ン乎則テ識者ノ垂教ヲ俟テ漸次校訂増補以テ其ノ大成ヲ期セン  
トス看者幸ニ焉レヲ諒セヨ

附言

本誌ヲ編纂スルニ當リテ其ノ成ヲ助ケラレタルハ郡衙吏員及各小  
學校長諸君ナリ爰ニ特筆シテ其ノ勞ヲ謝ス

明治三十五年三月

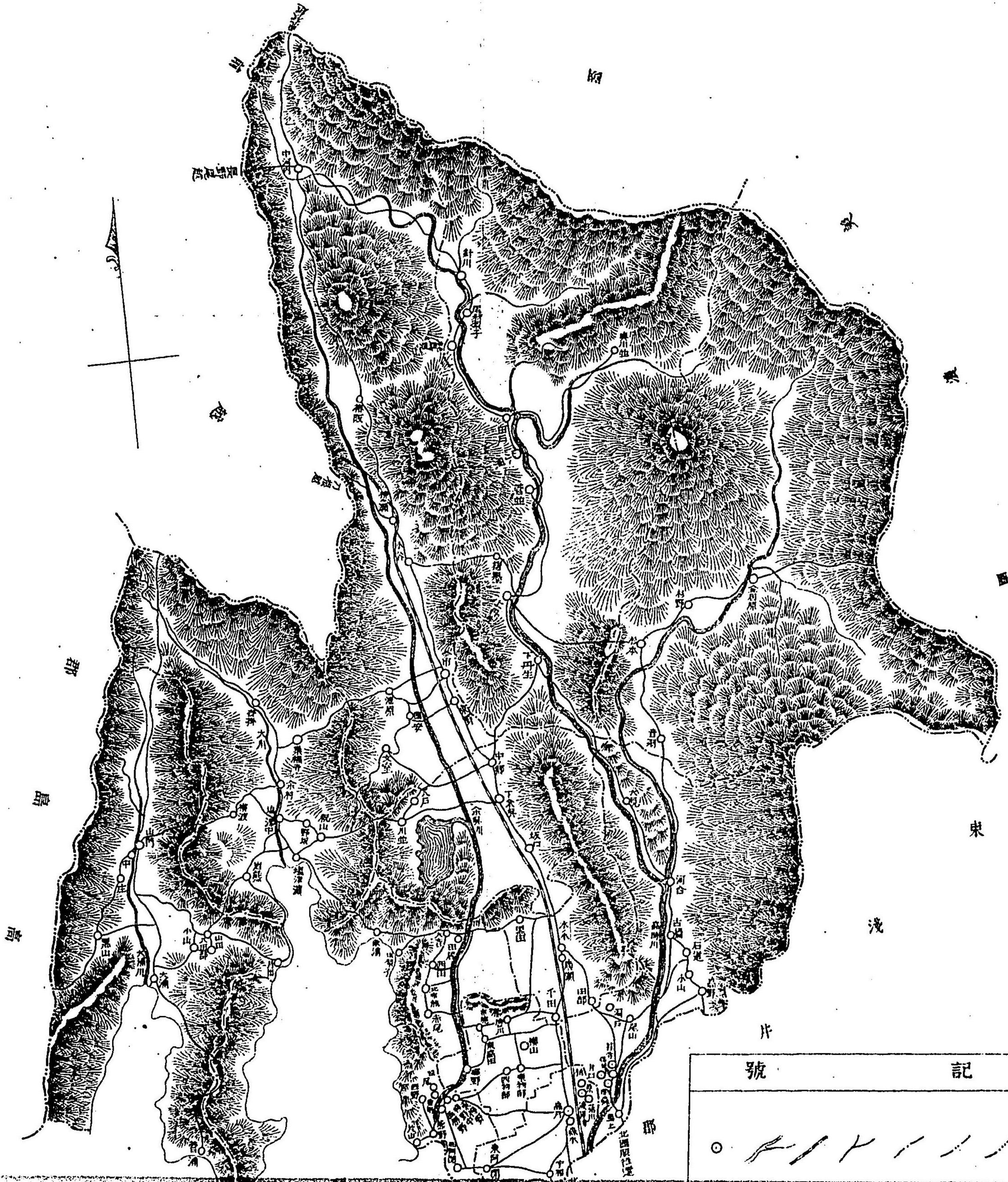
編纂委員 森田讓  
川崎泰英  
小谷源助

凡例

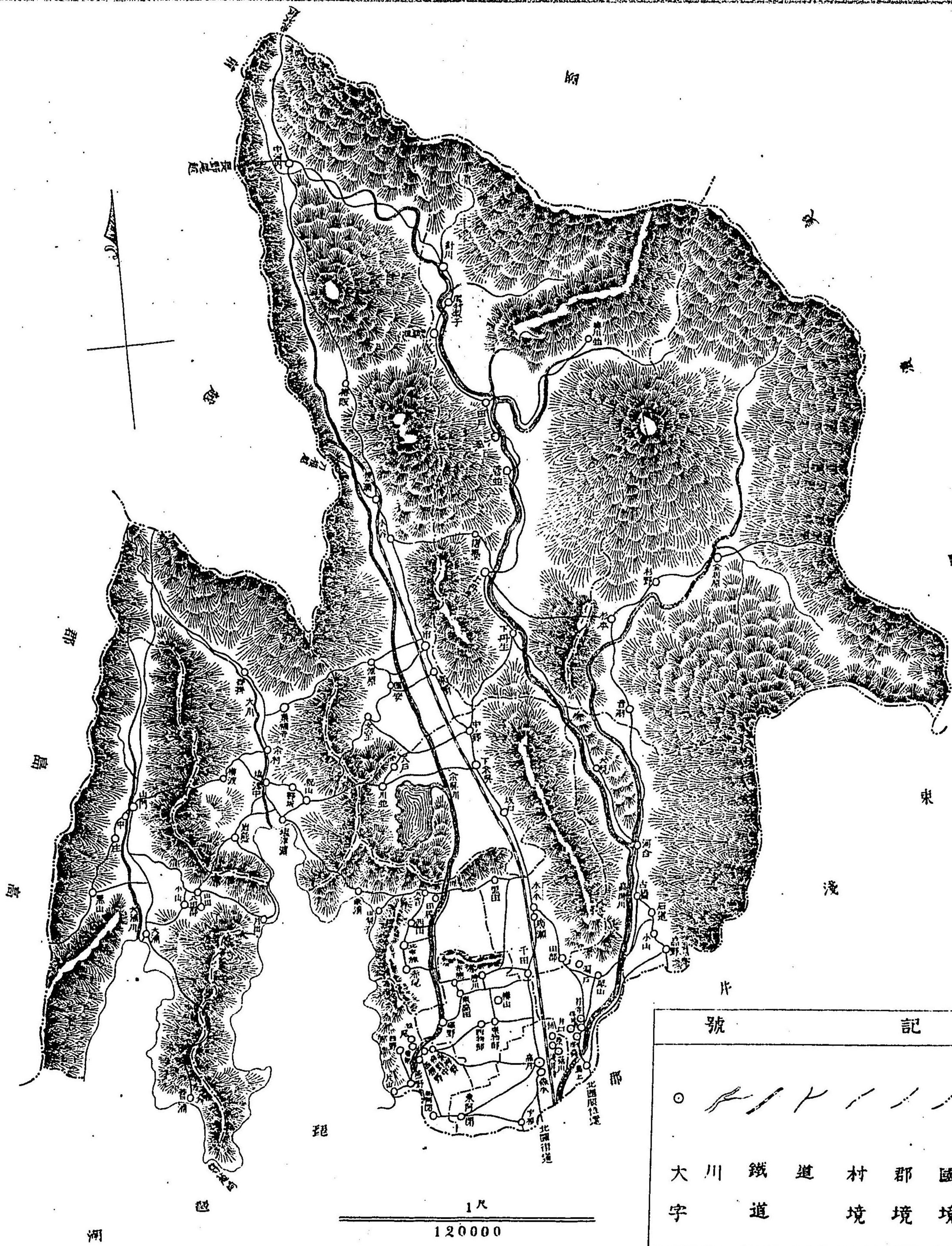
- 一 本誌ハ主トシテ郷民ニ本郡古今ノ體勢及縣下ニ於ケル地位  
トナ知ラシメ兼テ實業上ノ參考タラシメンコトヲ勉メタル  
ヲ以テ漫リニ無味ナル名詞及煩雜佶偈ナル文飾ヲ用ヒズ殊  
ニ緊要ナル事項ノ統計ヲ加ヘタリ
- 一 又本誌ハ小學校教科書ノ參考ニ供センガ爲メ殊更ニ加ヘタ  
ル事項少カラズ
- 一 スベテ統計ニ係ルモノハ最近ナルモノヲ參酌セリ
- 一 本誌ニ引用セシ圖書ハ凡十數種ニ涉タレドモ或全文ヲ抜キ  
タルモノ、外ハ其書名ヲ註セズ

伊  
香  
郡  
誌

# 伊香郡全圖



# 伊香郡全圖



記 號	
○	———
大川	鐵道
字	道
村境	郡境
	國境



# 伊香郡誌

## 總論

### 位置

伊香郡ハ近江國ノ北隅ニ位シ東ハ美濃國揖斐郡及本國東淺井郡北ハ越前國敦賀郡南條郡西ハ本國高島郡ニ界シ南ハ湖濱及東淺井郡ニ接ス

### 面積及廣袤

面積 二十三方里二分  
極東 (杉野村大字金居原) 五里三十町  
極西 (鹽津村大字沓掛)  
極南 (古保利村大字片山) 六里三十四町  
極北 (片岡村大字中河内)

### 反別及地價

田	二千八百八十四町七反
畑	九百八十四町二反
宅地	三百二十九町九反
山林	十七万八千六百四十圓
雜種地	五万四千三百八十二圓
合計	一万六千九百六十四町六反
其他	百八十五万七千六百四十五圓
總計	百八十五万七千六百四十五圓

戶數及人口

戶數 七千三百〇六戶

人口 三万五千七百〇二人

男 一万七千八百八十八人  
女 一万七千八百二十二

區劃

本郡ヲ杉野、高時、北富永、南富永、古保利、七郷、木之本、伊香具、余吳、丹生、片岡、塩津、永原、ノ十三ヶ村ニ分チ更ニ分ツテ九十五大字トス

地勢

南北稍長クシテ東北西ハ山嶺重疊地モ亦高ク南ハ漸ク平坦ナリ

山脈

北陸山系ハ郡ノ東北部ニ於テ東西二脈ニ分レ共ニ南走シテ東西北ノ三境ヲ圍繞シ其ノ東ノ山脈ハ二派ニ分レ一ハ美濃ノ國境ヲ南ニ蜿蜒シ東淺井郡ニ至ル其最モ高キチ金葉岳、土藏岳、横山、己高山トス一ハ北國街道ノ東ニ沿ヒテ南シ北富永村ニ至リ其脈繼ク其脈中最モ高キチ大黒山ト稱ス西ノ山脈ハ三脈ニ分レ一ハ郡ノ中央ヲ貫キテ南山本山ニ至ル其最モ高キチ行市山、賤ヶ岳トス一ハ塩津永原兩村ノ境ヲナ

シ葛籠尾崎ニ至リテ盡ク一ハ高島郡境ヲナシテ湖中ニ斗出ス

山

郡中第一ノ高山ヲ金粟岳トシ郡ノ東北部ニアリテ東淺井郡及美濃ノ國ニ跨ル其ノ山頂ニ至ル路程三里十五町アリ之ニ次クハ土藏岳ニシテ其北ニ聳エ西、横山ト相對ス其他己高山行市山等之ニ次ク賤ガ岳ハ其高サ僅カニ十町内外ナルモ著名ノ古戰場ニシテ郡ノ中央ニ峙ツ其東北ニ連ナルヲ大岩山トス其他七々頭岳、涌出山等ハ亦名アリ

川

高時川ハ又高月川ト云フ郡中第一ノ大河ニシテ北境片岡村榎木峠ヨリ發シ丹生村ヲ貫キ愈々南流シテ高時村大字川合ニ至リ杉野川ヲ合セ北宮永村南宮永村ヲ經テ東淺井郡ニ入り姉川ト合ス  
余吳川ハ片岡村大字椿阪ノ山間ヨリ發スル柳瀬川ト余吳湖ノ剩水トノ合流ニシテ南ニ流レテ大岩山ノ麓ヲ繞リ伊香具、七郷、古保利ノ諸村ヲ貫キテ東淺井郡ニ入ル  
其他糠津村ニ大川、永原村ニ大浦川アレドモ高時川、余吳川ニ比シテハ

細流ナリ

瀑布

經ノ瀧ハ杉野村ニアリテ其高サ五丈アリ之ニ次クハ同村五銚子ノ瀧ナリ其他瀧ノ脇、アソノ瀧、奈ノ瀧、多郎坊、妙理等ノ小瀑布アリ

湖沼

余吳湖ハ郡ノ中央賤ガ岳ノ北麓ニアリテ湖中鮭ヲ産スルヲ以テ名アリ(余吳村誌參看)

港灣

糠津港ハ糠津村ニアリテ日々汽船ノ便アル湖北ノ良港ナリ

大浦港ハ永原村ニアリテ舟楫ノ便アリ其他飯浦、片山等ノ小港アリ

岬角

永原村ノ南端湖中ニ斗出シタル葛籠尾崎ト稱シ竹生島ト相對ス

大井水ノ沿革

伊香郡大井ト云ヘル井水ハ水源同郡ノ高山横山岳ノ深谷五銚子ノ瀧口ヨリ出テ同郡川合ニ至リ丹生川ノ流ト合ス此地ニ水分神社ノアルモ水流配置ノ由緒アル故ナルベシ是ヨリ滔々トシテ水勢豊ニ伊香淺

井二郡數村ノ耕地ヲ潤ス

舊史ヲ按スルニ正治二年江州ノ守護佐々木備中守源賴綱勅ヲ奉ヨテ  
柏原弥三郎ヲ誅シ九ケ年間旱魃打續キ茲ニ於テ其靈ヲ慰シ井ノ明神  
ト崇メ井水ノ守護神トナスト云フ(北宮永村誌古跡參照)  
足利氏ノ中世ニ至リテ近江國ハ細川氏ノ管スル所トナリ其臣遊佐河  
内守專ラ井水ノ事ヲ整理ス其後古橋ニ政所ヲ置キ井水ノ事ヲ所置セ  
シハ後淺井氏政權ヲ執ルニ及ヒ天文二十二年井口越前守大井組ノ利  
害得失ヲ考ヘ之ヲ井奉行ニ贊シ同二十四年七月廿三日井奉行平井九  
郎右衛門竹本太郎次郎兩人ニ命シ井水從來因襲ノ組織ヲ記シ誓紙ヲ  
書セシメ下野守淺井久政ノ認可ヲ經テ豐臣氏ノ時政所ノ權ヲ壓縮  
シ其專斷ヲ禁ズ爰ニ於テ漸々ニ政所ハ有名無實竟ニ廢絶セリ天正十  
九年處々井水ノ爭論起リ豐臣氏ノ臣長東大藏大輔宮城長次吉田清右  
衛門八嶋久兵衛賀須谷内膳片桐主膳早川主馬頭牧野兵太小野木縫殿  
介増田右衛門尉等實地ヲ檢シ淺井氏ノ裁決其當ヲ得テ認ム文祿  
中淺井郡ト再ビ井水ノ爭論ヲ惹起シ此時ニ當リテ天下兵馬倥傯事ヲ  
議スルニ遠アラズ年ヲ經テ間ハズ慶長五年九月十六日徳川家康ノ關

ガ原ノ捷ヲ聞キ兩郡ノ井組總代之ヲ家康ニ訴フ家康訴人ヲ大津城ニ  
引キ井組總代双方ノ陳スル處ヲ聽キ保阪金右衛門新見彦左衛門ヲシ  
テ實地ヲ檢セシメ同九年閏八月十四日板倉伊賀守勝重大久保石見守  
長安ヲ以テ傳達セシム裁許舊ニヨラズ其要スル所何レノ地モ水損ヲ  
受ケシムルナカレト世人之ヲ評シテ一時ノ英斷ト稱ス此時繪圖ヲ製  
シ檢使之ニ捺印シテ下附ス爰ニ至テ累歲ノ水論頓ニ落着シ井水ノ休  
面ヲ一變シ伊香郡井水ノ基礎ヲ鞏固ニセリ其箇所ハ所謂河東ニ松田  
井一ニ妙臨寺淺井持ノ井俗ニハケ井ト稱ス河西ニ在テ上水井、大井、下井ノ五  
ヶ所ヲリ之ヲ高月川筋ノ井水ト稱ス

其後寛永八年七月再ビ水論ヲ起シ井ノ口村助右衛門雨森村久治保延  
寺村作藏持寺村彦市柏原村清五郎渡岸寺村山三郎東物部村源三太郎  
西物部村弥藏磯野村作藏柳野村多助唐川村助左衛門横山村五郎右衛  
門高月村弥太夫落川村孫介宇根村五郎太夫高田村弥二郎千田村左近  
五郎田部村助右衛門洞戸村吉助尾山村清兵衛等上井大井下井三組井  
水ノ總代トシテ之ヲ京都町奉行ニ訴ヘ又寶永元錄寶曆ノ數度訴訟ス  
ト云ヘドモ慶長九年ノ裁決ニ擬シ別ニ著シキ變替ナシ

官衙及公署

官衙名	所在地
伊香郡役所	木之本村大字木之本
木之本稅務署	全
杉野村役場	大字 杉野
高時村役場	大字 古橋
北富永村役場	大字 井ノ口
南富永村役場	大字 高月
古保利村役場	大字 西柳野
七郷村役場	大字 東高田
木之本村役場	大字 木之本
伊香具村役場	大字 西山
余吳村役場	大字 下余吳
丹生村役場	大字 上丹生
片岡村役場	大字 今市
蘆津村役場	大字 蘆津濱

永原村役場

大字 大浦

警察署

署名	所在地	所轄區域
木之本警察署	大字 木之本	伊香郡
全蘆津分署	大字 蘆津濱	全部蘆津村及永原村
巡查駐在所		
杉野	大字 杉野	杉野村 一區
古橋	大字 古橋	高時村 一區
井ノ口	大字 井ノ口	北富永村 一區 及木之本村大字旧部
高月	大字 高月	南富永村 一區
西柳野	大字 西柳野	古保利村 一區
磯野	大字 磯野	〔七郷村一區及木之本村大字千田北富永村 大字井ノ口ノ内三ツ矢〕
大音	大字 大音	伊香具村一區及木之本村大字黒川
中ノ郷	大字 中ノ郷	余吳村 一區
上丹生	大字 上丹生	丹生村 一區
東野	大字 東野	片岡村大字文室、東野、國安、池原、今市

柳ヶ瀬	大字柳ヶ瀬	片岡村大字柳ヶ瀬、橋阪、中ノ河内、小谷
塩津中	大字塩津中	塩津村 一圓 <small>但塩津濱、岩熊ノ二大字ヲ除ク</small>
八田部	大字八田部	永原村大字月出、八田部、小山、山田
大浦	大字大浦	永原村大字大浦、菅浦、黒山、庄村、中村、山門
裁判所		
長濱區裁判所	大字木之本	杉野村高時村北富永村南富永村古保利村七郷村木之本村伊香具村余吳村片岡村丹生村
全	大字塩津濱	永原村 塩津村
郵便局	集配區域	取扱事務
木之本郵便電信局	南富永北富永古保利七郷木之本余吳伊香具	郵便 電信 爲替 貯金 小包
塩津郵便局	塩津 永原	郵便 爲替 貯金 小包
柳ヶ瀬郵便局	丹生 片岡	郵便 爲替 貯金 小包
河合郵便局	高時 杉野	郵便 爲替 貯金 小包

教育ノ概況

舊幕時代ヨリ明治ノ初年ニ至ルマデハ寺小屋教育ナルモノアリテ各寺ノ僧侶子弟教育ノ任ニ當リ主トシテ讀書習字算術ノ三科目ヲ教授シタリシガ明治五年七月太政官布告ニ基キ漸ク學校ヲ組織スルニ至レリ其後又太政官布告ニ基キ大中小ノ學區ヲ置カレ同拾九年小學校令ヲ實施セラレ後同二十六年改正小學校令ヲ施行シ更ニ明治三十三年八月發布セラシ小學校令ヲ實施シテ現今ニ至ル

學校 (明治卅四年五月調)

村名	校名	資格	學級	學齡兒童	就學兒童	學齡百中	就學歩合
杉野	金居原	尋常	二	男 八二 女 七〇	男 五九 女 四七	九五・一二	七四・二八
全	杉野	全	二	男 八四 女 八五	男 六一 女 四七	九八・八〇	七七・六四
高時	高時	尋常	四	男 一八一 女 一五六	男 九二 女 一〇二	八四・二五	六二・七二
北富永	富永	全	五	男 二〇四 女 二〇五	男 一一六 女 一一八	九七・五九	七八・五四
南富永	高月	尋常	六	男 一九九 女 一七〇	男 一〇七 女 一〇七	九四・二五	七六・九九
古保利	古保利	尋常	五	男 一八八 女 一四七	男 一一三 女 七五	九九・四七	八八・〇八
七郷	七郷	高等尋常	七	男 一四三 女 一二七	男 一〇九 女 二八五	九八・六〇	八一・八二









伊香具神社ハ本郡唯一ノ縣社ニシテ伊香具村ニアリ其他高時村ノ與志滿神社、木之本村ノ意富布良神社、石作神社、片岡村ノ草岡神社、塩津村ノ塩津神社ハ郷社ニシテ村社九十二、無格社百〇二、境内無格社六十二アリ

佛

本郡中著名ナル寺院ハ高時村雞足寺、木之本村ノ淨信寺、明樂寺、丹生村ノ洞壽院等ニシテ總數二百五十九アリ其内真宗大谷派八十五、曹洞宗三十六、真宗本願寺派十三、佛光寺派十、時宗十、真言宗十、淨土宗七、黃檗宗一、臨濟宗一其他佛堂九十九アリ

名

木之本ハ郡ノ中央ニアリテ長濱町ヲ距ルコト三里三十三町、柳ヶ瀬ヲ距ルコト二里十六町東淺井郡ノ郡上ヲ距ルコト二里五町北國街道ノ要路ニ當リ商賈殷盛ニシテ郡内第一ノ名邑ナリトス郡役所、警察署、長濱區裁判所出張所、郵便電信局、稅務署、小林區署派出所、製糸場、銀行、停車場、地蔵尊等アリ、毎年六月十壹日ニハ牛馬市、三月八月十月ニハ地蔵尊日ニテ近在ヨリ來集スルモノ萬ヲ以テ數フ

牛馬市場ノ沿革

本市場ハ現今木之本牛馬市(昔ハ木ノ本馬市ト云フ)ト稱シ、舊彦根藩祖ノ用馬ヲ年々此地ニ於テ購求セラレタルヲ創メトシ其當時ニ於テハ馬ノ賣買ノミナリシガ越前國敦賀郡疋田村(當地ヲ距ルコト北方凡ソ六里)ニ牛市場ノアリシヲ其後當地ノ馬市ヘ合併セシモノナリト而シテ本市場ハ從來毎年六月十一月ノ二度之レヲ開設セシガ舊藩ノ時代ニ於テハ開市毎ニ井伊家ヨリ吏員ヲ派シテ用馬ヲ買上ケラレタルヲ以テ其頃ニハ馬ノ賣買最モ盛ニシテ牛ハ極メテ僅少ナリシ然レトモ廢藩以來用馬買上ノ事ナキヲ以テ馬ノ賣買漸ク衰頽スルノ實況ナリ牛ニ於テハ益々盛ニシテ現今ニ於テハ牛九分馬一分ナリ且當地方ニハ牛馬ヲ產出スルモノ更ニナキヲ以テ賣買人共ニ多ク他方ヨリ集合シテ開市スルモノナリ

古跡

賤ガ岳ハ天正十一年豊臣秀吉柴田勝家ノ軍ト戦ヒ其將佐久間盛政ヲ破リシ處ニシテ七槍ヲ以テ著名ナリ木之本ヲ距ル凡二十町余大岩山ハ余呉村大字坂口ノ西ニアリ賤岳ノ脈絡ニシテ中川清秀戰死ノ地ナリ

菅山寺ハ余吳村大字坂口ノ東十四町余ノ山間ニアリテ菅公ノ舊蹟ヲ以テ名アリ  
 毛受勝助兄弟ノ墓ハ片岡村大字池原ニアリ、  
 山本山ハ古保利村大字西阿閉ノ西南隅ニアリテ山本義定ノ城趾アル  
 フ以テ名アリ

風俗及人情

風俗ハ質素ニシテ人情ハ朴實溫和ナリ

氣候

北部ハ五寒甚シケレモ南部ハ稍溫暖ナリ概スレバ極寒華氏二十度極暑九十五度ナリ

生業ノ概況

本郡ハ概シテ農作ヲ專業トシ傍ラ林業養蚕製絲ヲ勵ミ、生計及富源ノ主要ナルモノトセリ

現住人職業ノ別

農	二六〇三二	階	二六
工	一一八八	織	三

(明治三十二年十二月卅一日)

商	一七四六	舟	一一〇
雜業	五四〇	漁	七九
官吏	五一	樵	五三一
教員	八四	獵	一五
町村役場吏員	五七	遊藝稼人	七
會社員	一五	定雇	四四四
神官	二四	日雇	二〇九七
僧侶	四五九	無職業	九七三
計	三四四九一		

地質		七郷村	南富永村
地土 (第四紀古層)		水之本村	北富永村
壤土 (第四紀古層)		杉野村	高時村
礫土 (秩父古生層)		丹生村	片岡村
砂質壤土 (第四紀古層)		塩津村	永原村
			古保利村
			伊香具村
			余吳村

産物

米及繭、蚕種、生糸、木材、炭、薪、魚類等産物ノ主ナルモノニシテ名産トシテハ木ノ本ノ桑酒、坂口ノ飴及余吳鮎等ナリ

産額概表

(明治三十二年)

米	五、五七九三石	茶	一、〇三九六貫	石灰	二五、三〇〇貫
麥	一一一八石	桑	一五六、三〇〇貫	瓦	二五八二坪
豆	二七八八石	繭	六、九六四三石	織物	一、〇八九〇反
雜穀	一〇一六石	生糸	五四二三貫	酒	三六五九石
根菜	三八、四〇〇貫	蚕種	三、〇〇〇枚	牛乳	七九石
蔬菜	一一、〇六〇貫	木材	七〇〇、〇〇〇貫	醬油	七六六石
蠟果	四、九二〇貫	木炭	八二、九〇〇貫	種油	一八一石
果實	一一、〇五〇貫	薪	三三三、三五〇貫	水産物	四五六八貫

交通

國縣道

北國街道ハ越前ノ國ヨリ來リ片岡村、余吳村、木之本村、南富永村ヲ經テ東淺井郡速永村ニ入ル北國脇往還ハ木ノ本村ヨリ岐レテ北富永村ヨ

過ギテ東淺井郡小谷村ニ入ル

鐵道

北陸線ハ南富永村、北富永村、木之本村、余吳村、片岡村ノ地先ヲ過ギテ南北ニ通ス郡中高月、木之本、中ノ郷、柳ヶ湖ニ停車場アリテ交通甚ク便利ナリ

水路

鹽津港ヨリ日々大津市及其他ノ湖港ヘ汽船ノ往復アリ其他飯ノ浦、月山、大浦、菅浦、片山、山梨子ヨリハ日々船便アリテ湖上ノ運送甚ク便ナリ

里程表

各村役場ヨリ伊香郡役所ニ至ル里程

杉野村ヨリ	二里十九町	木之本村ヨリ	二町
高時村ヨリ	廿六町廿六間	余吳村ヨリ	三十一町廿三間
北富永村ヨリ	廿四町五十三間	丹生村ヨリ	二里三町九間
南富永村ヨリ	一里三町二十八間	片岡村ヨリ	一里廿五町十一間
古保利村ヨリ	一里十六町三十五間	鹽津村ヨリ	二里十八町十八間
七郷村ヨリ	三十町三間	永原村ヨリ	四里八町廿九間
伊香具村ヨリ	二十二町廿九間		

沿革  
伊香郡 役所ヨリ滋賀縣廳ニ至ル里程 廿二里六町

伊香郡ハ上古伊香津臣命ノ領地ナレバ郡名トス又郡ニ伊香具神社アル故ナリト云フ一説ニ古此地ニ靈木アリ異香芬々トシテ四方ニ蒸ス故ニ名クト又一説ニ往古餘吾ノ湖水ニ天水集リ舞樂ス其歌妓ノ數五百人ニ及ブ故ニ五百ノ兒ト云ヨリ郡名トス今ハ「イカ」ト訓スレドモ古ハ「イカヨ」ト讀マセタリ (近江名跡案内記)

笠朝臣金村、伊香山作歌 (萬葉集)

伊香山野へにさきたるはき見ればきみが家なる尾花しかもほゆ

近江の伊香古と云ふ所にまかりける人のもとへ

(散木奇歌集)

いははやな知らでや人のいとぐらんいかこの浦はみる日なしども  
元西淺井郡ハ古來傳ヘ言フ上古淺井中央ノ地震ノ爲陷没シテ東西  
二郡ニ斷絶ス一明治十二年五月六日地方制度施行ノ際其名稱ニ限リ  
東西二字ヲ冠付セシガ同十三年五月五日太政官布告ニ依リ東西ノ二  
郡ニ分轄セラレシメ其後明治三十年三月三十一日ヲ以テ西淺井郡ナ

伊香郡ト共ニ廢シ全年四月一日ヨリ全區域ヲ以テ伊香郡ト稱セラレ  
タリ

管轄

源賴朝兵ヲ伊豆ニ起スヤ佐々木秀義子弟ヲ率ヒテ關東ニ赴キ之ニ依  
ル佐々木氏ハ宇多帝第九ノ皇子敦實親王ヨリ出ツ世々近江源氏ト  
稱ス親王四代ノ孫參議扶義次子成賴始メ佐々木郷ニ居ル因テ氏トス  
近江守ニ任ズ秀義ハ成賴五世ノ孫ナリ秀義遠ニ近江ノ守護トナリ子  
孫世襲シ其裔高氏足利氏ノ初メニ方リ近江全國ヲ併吞シ國司トナル  
高氏薨髮シテ道譽ト稱ス是ヨリ全國ヲ二ツニ分チ愛知川以南ハ六角  
氏ニ屬シ以北ハ京極氏ニ屬ス永正十四年淺井亮政京極高峯ト戰ヒ之  
ニ克テ遂ニ江北六郡ヲ領ス永祿十一年織田信長之ヲ治メ天正元年信  
長淺井亮政ヲ滅ボシ封地十八万石ヲ羽柴秀吉ニ賜フ同十年信長明智  
光秀ニ弑セラレヤ秀吉近江三十万石ヲ以テ信長ノ孫秀信ニ奉ス同  
十三年秀吉近江全國ヲ以テ豊臣秀次ニ賜フ同十六年近江ノ地九万石  
ヲ徳川家康ニ賜フ慶長五年家康非伊直政ヲ澤山ニ封フ十八万石ヲ與  
ヘ後直孝城ヲ彦根ニ移シ子孫世襲スルニ至リ本郡其提封ニ屬ス(此他

ニ天領アリ)裔孫直憲ノ時ニ至リ王政革新ニ際會シ明治二年版籍封土ヲ返還シ知藩事ノ職ニ任セラレ之ヲ治ム同四年彦根藩ヲ廢シ長濱縣(此ノ時近江ノ國ニ大津及滋ノ二縣アリ)トシ更ニ犬上縣トナリ同五年五月又犬上縣ヲ廢シ滋賀縣管下ニ屬セリ

明治廿二年四月撰定村名ノ起因

杉野村 百五十五戸  
 音羽村 二十二戸  
 金居原村 百八十八戸

計 四ヶ村 四百十九戸

明治六年土倉村益子村金居原村ノ三ヶ村ヲ合併シ金居原村ト稱シ杉野上村杉野中村杉野向村杉野下村ノ四ヶ村合シ杉野村ト稱セシガ全十二年元杉野下村ハ杉野村ヨリ分離シテ杉本村ト稱シ獨立セリ音羽村ハ元川合村ノ枝卿ナリシガ全六年分村獨立セリ而シテ郡區改正以前ハ此四ヶ村ト大見川合ノ二ヶ村ヲ合シ第一區トセリ後明治十八年聯合戸長役場ノ設置ニ際シ一區域トナシタリ之ヲ合併一村トスルモ地形人情ニ於テ故障ナキ故町村制實施ニ際リ此區域ヲ以テ一村トセ

新村名撰定ノ事由

此四ヶ村ハ古來里俗杉野谷ト稱シ全地方ノ總名トナレリ故ニ此合併村ヲ杉野村ト稱セリ

高時村 古橋村 百四十四戸 石道村 五十六戸 高野村 八十戸  
 川合村 百四十五戸 小山村 四十一戸 大見村 四十三戸

計 六ヶ村 五百十四戸

此六ヶ村ハ各高時川ノ東ニ散在シ舊來之ヲ川東各村ト稱シ一部落形ヲナセリ而シテ郡區改正以前ハ古橋石道小山高野ハ井口保延寺等ノ諸村ト第二區トナリ大見川合ハ杉野金居原ト共ニ第一區トナレリ後明治十八年聯合役場ノ一區域トナレリ故ニ之レヲ合併新村トナスモ地形ニ於テ不便ナキノミナラズ民心ニ於テモ又故障ナキヲ以テ一村トセリ

新村名撰定ノ事由

此合併新村ヲ高時村ト稱ス其理由該諸村ハ丹生川杉野川ノ二流相合シ始メテ高時川ノ名稱起ル處ニアリテ舊來別ニ總名ナク又著名ノ村ナキヲ以テ川名ヲ用ヒ新村名トナシタルナリ

北富永村 保延寺村 五十戸 尾山村 二十九戸 馬上村 百二十一戸

持寺村 三十四戸 洞戸村 二十一戸 雨森村 百五十五戸

計 七ヶ村 五百三十九戸

此各村中馬上村ハ少シク相離レ他ノ各村ハ地形圓鑿宛モ一村ノ如ク民情ヲ同セリ而シテ郡區域改正以前ハ古橋小山等ノ諸村ト第二區ニナリ明治十八年聯合役場ノ一區域トナレリ故ニ合併スルモ民心ニ悖クザルナリ

新村名撰定ノ事由

此七ヶ村ハ舊富永莊内ノ北部ニアルヲ以テ北富永村ト稱セリ

柏原村 九十戸 落川村 三十八戸 東阿閉村 九十九戸

南富永村 渡岸寺村 二十三戸 高月村 百九十八戸

森本村 二十三戸 宇根村 七十三戸

計 七ヶ村 五百四十四戸

曩ニ戸長ニ於テハ東阿閉村ヲ割キ新村古保利村(現今柳野聯合各村ナリ)ニ合併スルヲ以テ可トセリ之レ西阿閉村ト東阿閉村トハ現今學區々域ヲ同セルト地形上高月村ニ比スレバ稍西阿閉村ニ近接セルニヨルナラン然

レドモ其民情ノ如何ヲ調査スルトキハ東西阿閉ハ從來甚ダ親密ナラズ加フルニ東阿閉村ニ於テハ水利上高月村聯合各村ト相離ルベカラザル關係アルノミナラズ高月村ニ合併スルヲ希望スルヲ以テ同役場區域ニヨリ合併セシナリ而シテ郡區域改正以前ハ宇根高月森本落川渡岸寺柏原ノ各村ハ他ノ諸村ト第六區トナリ東阿閉村ハ第八區ニ編入セラレタリ明治十八年此七ヶ村ヲ聯合シ戸長役場區域ト定メラレタリ殊ニ此七ヶ村ハ舊來水利ヲ共ニシ民情ヲ同フシ相離ルベカラザル關係アルヲ以テ合併一村トナリタリ

新村名撰定ノ事由

該各村ハ舊富永莊内ノ南部ニアルヲ以テ南富永村ト稱セリ

西野村 百一十一戸 熊野村 四十四戸 柳野中村 三十五戸

古保利村 片山村 四十三戸 松尾村 二十七戸 西柳野村 三十六戸

重則村 三十五戸 東柳野村 七十六戸 西阿閉村 百二十一戸

計 九ヶ村 五百二十八戸

此九ヶ村ハ郡區域改正以前ハ磯野東阿閉ノ二ヶ村ヲ合シ第八區トナレリ明治十八年設定聯合役場區域ハ磯野東阿閉ノ二ヶ村ヲ除キ九ヶ村

ヲ以テ一區域ト定メラレタリ殊ニ民情異ナラズ地形及水利相聯絡シテ離ルベカラザル關係アルヲ以テ一村トナリタリ

新村名撰定ノ事由

此九ヶ村ハ舊郡ノ莊ナルヲ以テ其莊名ヲ襲用シ部村トナサント欲セシモ郡村ノ字句穩當ナラザルヲ以テ文字ヲ替へ古保利村ト稱セリ

磯野村 百〇三戸 横山村 二十三戸 唐川村 百〇二戸  
西物部村 三十一戸 東高田村 四十六戸  
東物部村 百〇二戸 布施村 三十三戸

計 七ヶ村 四百四十戸

此七ヶ村ハ郡區改正以前ノ舊區ハ二區域トナレリ則布施東高田唐川横山東物部西物部ハ西山赤尾千田ト共ニ第七區トナリ磯野ハ柳野各村ト第八區トナレリ明治十八年聯合戸長役場設置後ハ七ヶ村一區域トナリタルガ此七ヶ村ハ土地接續シ民情同一ナルヲ以テ合併一村トナリタリ

新村名撰定ノ事由

此七ヶ村ハ舊數莊ニ跨リ何レノ莊名ヲ以テスルモ穩當ナラズ又舊名

稱ヲ參五折衷スルモ數村ノ合併ナルヲ以テ適當ノ名稱ヲ得ズ又大村ノ名稱ニ依ランカ各村散テ甲乙ナキヲ以テ不得已七郷村ト稱セリ之レ七ヶ村ヲ合併セシニヨルナリ

木之本村 三百七十二戸 田部村 五十八戸 黒田村 二百十六戸  
廣瀬村 百十八戸 千田村 百十五戸

計 五ヶ村 八百七十九戸

從來木之本村ハ元南木之本、北木之本、木之本ノ三ヶ村ナリシガ明治六年合村シテ木之本村ト稱セリ廣瀬村ハ元南木之本村ノ一部ナリシガ明治八年分離シテ廣瀬ト稱シ獨立セリ而シテ明治十二年郡區改正以前ノ舊區ハ田部、木之本、廣瀬ノ三ヶ村ハ第六區千田村ハ第七區黒田村ハ第五區ナリ同十八年右五ヶ村ヲ一聯合トシ木之本村ニ戸長役場ヲ設置セラレタルガ此五ヶ村ハ連絡接續ノ村ニシテ分離スベカラザルノ地形ナルノミナラス地形民情ニ於テ障礙ナキモノナリ而シテ廣瀬ハ舊數多村ナルヲ以テ合併ノ各村ニ於テ或相厭フノ情アリト雖モ同村ハ從前木之本村ノ一部ナリシガ明治六年分村セシモノニシテ貧民多ク僅ニ矮小ナル家屋ヲ有スルノミニテ尺寸ノ耕地ナク常ニ各村ノ



扶助ヲ仰ギシモノニシテ到底獨立スベカラザルモノナルヲ以テ不得  
止合併セシナリ

新村名撰定ノ事由

本之本村ハ北國往還ノ宿驛ニシテ伊香郡中ノ名邑且合併各村中最モ  
大村ナルヲ以テ其村名ヲ取リ本之本村トセリ

赤尾村 五十九戸 山梨子村 十七戸 大音村 九十二戸

伊香具村 北布施村 四十五戸 飯浦村 五十九戸

田居村 四十九戸 西山村 七十二戸

計 七ヶ村 三百九十二戸

田居村ハ元西山村ナリシガ明治六年分村シテ田居村ト稱セリ北布施  
村ハ元赤尾村ナリシガ全年分村セリ明治十二年郡區改正以前ハ大音  
山梨子飯浦ニ他ノ各村ヲ加ヘ第五區トシ西山赤尾田居北布施ニ近傍  
數村ヲ編入シ第七區トナセリ全十八年右ノ七ヶ村ヲ聯合シテ大音村  
ニ戸長役場ヲ設置セシレタルガ此七ヶ村ハ民情同一ナルヲ以テ合併  
一村トナスモ故障ナカリシナリ

新村名撰定ノ事由

此諸村ハ著シキ大村ナク又名邑ナキヲ以テ大音村ニ鎮座セル伊香具  
神社ハ式内神社ニシテ古來伊香ノ大社ト稱シ其著名ナルヲ以テ伊  
香具ノ字ヲ留シテ村名トナシタルナリ

坂口村 九十三戸 中之郷村 百六十一戸 八戸村 三十八戸

下余吳村 百四十三戸 川並村 九十八戸

計 五ヶ村 五百三十三戸

明治十二年郡區改正以前ニアリテハ川並八戸下余吳坂口ノ四ヶ村第  
五區中之郷ハ他各村ト第三區トナレリ全十八年聯合戸長役場ヲ設ク  
ルニ至リ此五ヶ村一區域トナリタルガ此五ヶ村ハ各相接續シ合併ヲ  
ナスモ地形人情ニ於テ故障ナカリシナリ

新村名撰定ノ事由

余吳村ト稱セシハ舊余吳莊ナルト此ノ合併村内ニ余吳湖ト唱フル著  
名ノ小湖アルニヨリタルナリ

下丹生村 五十三戸 小原村 十七戸 尾羽梨村 十二戸

上丹生村 百三十一戸 田戸村 十四戸 針川村 十三戸

摺墨村 二十八戸 與川並村 三十四戸

菅並村 七十七戸 慈見村 二十一戸

計 十ヶ村 四百戸

從來摺墨村ハ元上丹生ノ枝柳ナリシガ明治十二年分村獨立シタルモノナリ而シテ各村ハ全十二年郡區改正以前ハ中之柳ト共ニ第三區ノ一區域ニシテ全十八年聯合戸長役場設置後ハ此十ヶ村一區域トナリシナリ而シテ此ノ諸村ハ古來丹生谷ト稱スル伊香郡中最マ僻地ニシテ深山幽谷ノ間ニ散在シ人口耕地共ニ甚ダ寡ク僅ニ山林ニヨリ衣食セルモノナルヲ以テ稍區域ノ大ニ失スル嫌ナキ能ハスト雖モ到底獨立シ能ハザルヲ以テ合併一村トナリタリ

新村名撰定ノ事由

從來此諸村ヲ指シテ丹生谷ト稱シ自然該地方ノ總名トナレリ而シテ上下丹生村ハ各村中ノ大村ナルヲ以テ之ヲ丹生村ト稱セリ  
中河内村 百七戸 東野村 九十五戸 文室村 五十二戸  
片岡村ハ椿坂村 五十八戸 今市村 三十五戸 池原村 九十七戸  
柳ヶ瀬村 八十六戸 國安村 七十六戸 小谷村 七十戸  
計 九ヶ村 六百七十六戸  
此ノ各村中、中河内村ハ越前ノ内境ニ位セル北國往還ノ一驛ニシテ從

來旅客ノ往來物貨ノ運搬等繁多ニシテ細民ノ生計ヲ補ケ漸ク一村ヲ維持スルニ足リシヲ以テ戸長役場ノ如キハ一村獨立セリト雖長濱敦賀間ノ鐵道開シシヨリ忽チ活路ヲ失ヒ爾來年ヲ逐フテ殊疲弊ニ陥ルノ現況ナリ又柳ヶ瀬村モ中河内ト同ク一驛ナリシヲ以テ稍一村獨立ノ力アリタルニヨリ先キニ椿坂村ト聯合シテ一戸長役場區域トナリシモ亦鐵道ノ爲メ頓ニ生計ノ途ヲ失シ一村ヲ維持シ能ハザルノ有様アリ又池原小谷東野今市國安文室ノ諸村ハ一戸長役場區域ニシテ民情同一ナルヲ以テ之レニ中河内柳ヶ瀬椿坂ノ三ヶ村ヲ合併シテ以テ一村トセリ是レ或ハ區域廣闊ナルガ如シト雖モ地形上之レヲ二三ニ分離シテ適當ノ村ヲ造成シ得ベカラザル實況アレバナリ而シテ此九ヶ村ハ明治十二年郡區改正以前ハ第四區ニシテ一區域トナリ全十八年聯合戸長役場設置ヨリ柳ヶ瀬村椿坂村ヲ一區域トシ池原小谷文室國安東野今市ノ六ヶ村ヲ一區域トシ中河内ハ一村獨立トナリシコトアリ

新村名撰定ノ事由

各村中柳ヶ瀬中河内ハ北國往還ノ宿驛ニシテ郡中著名ノ村落ナリト

雖モ今ヤ資力他ノ諸村ト相伯仲シ互ニ優劣ナキヲ以テ舊莊名ヲ裝用  
シ片岡村ト稱セリ

鹽津濱村 二百三十九戸 野坂村 三十一戸 横波村 三十五戸  
鹽津村 岩熊村 九十八戸 鹽津中村 六十五戸 集福寺村 九十五戸  
祝山村 四十六戸 余村 五十六戸 沓掛村 八十二戸

計 九ヶ村 七百四十七戸

明治十二年郡區改正以前ハ此九ヶ村ヲ以テ第十四區ノ一區域ニ編入  
セラレタリ全十八年聯合戶長役場設置ノ際鹽津濱外三ヶ村ト余村外  
四ヶ村ノ二區域トナリシガ地形人情スベテ同一ナルヲ以テ町村制實  
施ニ際シ一村トナリタリ

新村名撰定ノ事由

此諸村ハ舊來鹽津莊ト稱セリ近世ニ至リ各村ノ總稱ヲ鹽津谷ト唱へ  
同地ノ總名トナレルヲ以テ新村ノ名稱トセシナリ

月出村 四十二戸 大浦村 二百三十七戸 山門村 七十七戸  
八田部村 百〇一戸 菅浦村 百十戸 黒山村 四十七戸  
永原村 山田村 五十九戸 庄村 百十九戸  
小山村 四十七戸 中村 四十一戸

計 十ヶ村 八百七十四戸

郡區改正以前ハ此十ヶ村ヲ以テ第十五區ニ編成セラレタリ明治十八  
年聯合役場ノ設置ニ際シ大浦村外五ヶ村ト八田部村外三ヶ村ノ二區  
域ニナリシガ地形人情同一ナルヲ以テ合併ノ必要ヲ感シ町村制實施  
ニ際シ一村トナリタリ

新村名撰定ノ事由

此諸村ハ舊永原ノ莊ナルヲ以テ其莊名ヲ用ヒ永原村ト稱セリ

杉野村誌

杉野村誌

# 杉野村誌

## 位置

本村ハ本部ノ東北部ニ位シ東ハ山脈ヲ以テ東淺井郡上草野村ニ境シ  
西ハ丹生村ニ隣リ北ハ美濃國ニ界シ南ハ高時村ニ接ス

## 廣袤

極東西 凡壹里三拾町

極南北 凡三里拾貳町

## 反別及地價

田 四拾九町九反二畝拾二步

壹万參千四百九拾七圓〇六錢

畑 七拾六町貳反三畝貳拾四步

五千五百貳拾八圓貳拾錢

宅地 拾參町九反七畝六步

參千百貳拾八圓七拾七錢

山林 千三百五拾四町六反八畝貳拾壹步

千七百拾三圓六拾八錢

雜種 四町六反九畝四步

參拾壹圓五拾錢

合計 千四百九拾九町五反壹畝七步  
貳萬三千八百九拾九圓貳拾壹錢

其他 七畝貳拾六步

總計 反別 千四百九拾九町五反九畝三步  
地價 二萬三千八百九拾九圓貳拾壹錢

舊藩時代不高

金居原 六拾四石

杉野及杉本 四百參拾壹石六斗一升

音羽 丁銀四百四拾三匁

戶數及人口

戶數 四百〇四戶

人口 一千九百九拾貳人  
男 一千〇〇八人  
女 九百八十四人

區劃

地勢

本村ヲ 金居原、杉野、杉本、音羽ノ 四大字ニ分ツ

本村ハ東北ヨリ西南ニ延ビ四面山ヲ以テ圍ミ平坦ノ地甚少シ杉野川ハ村ノ中央ヲ貫流セリ

山

金蕨嶽ハ大字金居原ノ東部ニアリテ美濃ト近江ノ國境ニ峙テル高嶺ナリ須亦山ハ金蕨嶽ヨリ來リテ東北ニ延ビ落谷山ハ須亦山ヨリ西南ニ續キタル高山ニシテ其餘脈ハ高時村己高山ト連峯相接ス共ニ金蕨嶽ノ山脈ナリ

土藏嶽ハ大字金居原ノ北部ニ位スル高山ニシテ横山嶽ト相連ル

中尾峠ハ金蕨嶽土藏嶽ノ中間ニアリテ美濃國揖斐郡坂内村ニ至ルノ坂路アリ

川

横山嶽ハ大字杉野ノ北方丹生村トノ境ニ聳ユル高山ナリ  
杉野川ハ土藏嶽及中尾峠ノ山間ヨリ發スル登リ川ト金蕨嶽及須亦山ヨリ發スル須亦川トノ二川西南ニ流レテ大字金居原ノ中央ニテ合シ

杉野川トナリ更ニ南流シテ大字杉野ニ入り横山嶽ヨリ發スル綱谷川  
ヲ合セ大字音羽ヲ過ギ高時村大字川合ニ至リ丹生川ト合シテ高時川  
トナル

漆布

五銚子ノ瀧ハ大字杉野横山嶽ノ麓字白谷ニアリ其高サ八丈ニ餘リ其  
幅四尺餘アリ  
經ノ瀧ハ同地近傍ニアリテ其高サ五丈餘アリ又其側ラニ瀧ノ脇ノ瀧  
アリ

官衙及公署

杉野村役場

大字杉野ニアリ明治十八年七月金居原、杉野、杉本、音羽ノ四ケ村聯合シ  
テ役場ヲ設置シ杉野村外三ヶ村戸長役場ト稱セシガ明治廿二年四月  
一日町村制實施ニ際シ杉野村役場ト改稱シ爾來今日ニ至リタルナリ

學校

杉野尋常小學校

本校ハ明治拾九年九月小學校令實施ニ際シ明治八年十月ノ創立ニ係  
ル琢才學校ヲ廢シ全年十月簡易科杉野小學校ヲ設置セシガ全廿五年  
改正小學校令ニ基キコレヲ廢シ全年十月杉野尋常小學校ヲ設置セリ  
金居原尋常小學校  
本校ノ創立ハ明治八年十月ニシテ至道學校ト稱セシガ同拾九年拾壹  
月小學校令ノ實施ニ際シ該稱ヲ廢シ簡易科金居原小學校ト改稱ス而  
シテ明治廿五年九月改正小學校令ノ實施ニ基キコレヲ廢シ金居原尋  
常小學校ヲ設置セリ

社	號	祭	神	社	格	所	在	地
八幡神社		櫻田別命	命	村	社	金	居	原
横山神社		大岩山比賣命	命	式內全		杉		野
六所神社		大相倉大幡宮 不夷ノ宮八幡 詳	神	全		杉		本



八幡神社	八幡神社	八幡神社	六座神社	住吉神社	春日神社	八幡神社
舉田別命	天兒屋根命	中津々男命	不詳	大繁鷲命	白山姫命	息長足姫命
全	無格社	全	全	全	全	全
音羽	金居原	全	杉野	全	全	全

八幡神社 (金居原)

八幡神社ハ往古鎌倉時代正中二年十一月十三日濃州ノ住人今井又八郎ト云フモノ鎌倉第三代ノ若君ニ仕ヘタリシガ故アリテ當地ニ來リ守今鎌倉谷ニ滞留スルコト十餘日ナリ時ニ村家六戸之ヲ信仰シ若君ヲシテ譽田別尊ヲ祭ラシメ弓矢八幡ト号シテ氏神トシ今井又八郎ヲ留メテ氏守トナセリ後明治九年村社ニ列セラレタリ

横山神社

横山社ノ口碑ニヨレバ往古大山祇命本村郷内横山岳宇白谷五銚子瀧

ノ上流ナル杉ノ木ヘ御降臨アリシニヨリ御神体ハ此ノ杉ノ木ニ作リタルモノナリト其杉株今ニ存シテ枯レズ故ニ之ヲ神木ト云ヒ傳ヘリ推古天皇ノ御宇二年二月中ノ申ノ日此處ヨリ數町下ナル宇經ヶ瀧ノ上方ニ一社ヲ建立シすぎくらの社ト云ヒ傳フ横山氏主神アリ其後天徳元年ニ至リ合祀ノ本地馬頭觀音ヲ七郷村大字横山ニ移シタリ後永享十一巳未年本社ヲ宇宮内ヘ遷座セリ今ノ横山神社即チ是ナリ明治廿四年八月一日寶物取調ベノ際帝國博物館長ヨリ鑑査狀ヲ交付セラレタリ

六所神社

六所神社ハ古昔地頭領家尊崇深厚ナリシ大社ニシテ本社寶物中ノ不動明王ノ木作立像ハ台山領ノ座主喜慶僧都ノ彫刻ニ係レルモノナリト云ヒ傳ヘタリ明治十四年二月一日村社ニ列セラレタリ

佛	寺	號	本	尊	宗	派	所	在	地
琳	琳	琳	琳	琳	琳	琳	琳	琳	琳
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿
弥	弥	弥	弥	弥	弥	弥	弥	弥	弥
陀	陀	陀	陀	陀	陀	陀	陀	陀	陀
如	如	如	如	如	如	如	如	如	如
來	來	來	來	來	來	來	來	來	來
興	興	興	興	興	興	興	興	興	興
宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗	宗
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
願	願	願	願	願	願	願	願	願	願
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
派	派	派	派	派	派	派	派	派	派
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
居	居	居	居	居	居	居	居	居	居
原	原	原	原	原	原	原	原	原	原

安覺寺	長道寺	淨念寺	龍山寺	元龍寺	宗願寺	報土寺	專心寺	藥師堂	藥師堂	阿彌陀堂	阿彌陀堂	觀音堂
阿彌陀如來	全	全	全	全	全	全	全	藥師如來	全	阿彌陀如來	全	觀世音菩薩
真宗大谷派	全	全	全	全	全	全	全					
杉野	全	全	全	全	全	全	全	金居	杉野	杉野	全	全

光琳寺  
光琳寺ハ往昔天台宗ナリシガ本願寺第八代蓮如上人ノ時ニ當リ加州

能美郡小松村松ヶ中弥五郎ト云フ武士出家シテ蓮門ノ弟子トナリ名ヲ蓮慶ト號シ明慶三寅年台家ヲ廢シ真宗ノ一寺ヲ創立シテ光琳寺ト號シタリ

安覺寺  
安覺寺ハ元祿五年申五月ノ創立ナリ、元大谷派道場ナリシガ明治十二年十月廿九日ニ至リ寺号ヲ付シテ安覺寺ト號セリ

長通寺  
長通寺ハ往昔天台宗ナリシガ中古真宗ニ轉シ大谷派道場トナセリ、明治十二年ニ至リ寺号ヲ付シテ長通寺トナセリ

淨念寺  
淨念寺ハ創立年月ヲ詳ニセズト雖古來真宗大谷派ノ道場ナリ、明治十三年四月三十日寺号ヲ付シテ淨念寺トセリ而シテ當寺ノ本尊ハ慈覺大師ノ彫刻ニカ、レリト云フ

龍山寺  
龍山寺ハ往昔天台宗ナリシガ古見了トイヘルモノ本願寺乘如上人ニ歸依シテ真宗ニ歸シ寶曆四年ニ至リ真宗大谷派道場ヲ開キ後明治十

三年四月三十日寺号ヲ付シテ龍山寺トナセリ

元龍寺

元龍寺ハ往昔天台宗ニシテ比叡山ノ末寺ナリシガ其後真宗ニ歸シ道場ヲ開キテ明治十三年四月三十日ニ至リ寺号ヲ元龍寺ト改メタリ

宗願寺

宗願寺ハ貞享四年七月十三日真宗大谷派道場ヲ開キ明治十三年四月三十日寺號ヲ宗願寺トナセリ明治十九年六月十五日祝融ノ災ニ罹リ堂宇炎上今ニ再建ノ舉ニ出テス空シク境内荒涼ノ姿トナリス

報土寺

報土寺ハ往昔天台宗ナリシガ文明年間本願寺第八代蓮如上人北國化導ノ際此ノ地ニ留錫シ六字ノ名號ヲ賜ハリ說法セラレタルニヨリ轉シテ真宗トナル後又實如上人ヨリ一部ノ御文章ヲ下シ賜ヘリ

専心寺

専心寺ハ往昔天台宗ナリシガ永仁年間本願寺第三代覺如上人此地ヲ遊歴シテ真宗ヲ弘ム郷民大ニ歸依ス仍テ六字ノ名號ヲ留メ本寺ニ安置ス是ヨリ真宗ニ轉シ今尙東本願寺ノ末寺タリ本尊阿彌陀如來ハ蓮

古跡

慶ノ作ニシテ古昔美術ノ模範タリ其他古代佛像等數多現存セリ

直孝松

大字金居原ノ東北一里許ナル路傍ニアリ故ニ之ヲ一里松トモ云フ周リ一丈四尺餘其幹分レテ三ツトナリ枝葉盡ク下方ニ向フ鬱蒼タル老樹ナリ往昔彦根藩主井伊直孝公ノ手植セラレシナリト云フ

南封寺跡

大字杉野ニアリテ遠ク傳教大師ノ開基ナリ延暦年中大師佛法ヲ弘メソガ爲メ偶々此地ヲ遊歴セシニ惡疫流行シテ病死スルモノ多カリシカバ手自ヲ十一面千手觀世音菩薩ノ靈像ヲ彫刻シ本寺ニ安置シテ祈念シ玉フ爾來郷民ノ信仰厚カリシニヨリ佛法大ニ隆興シ遂ニ七堂大伽藍ヲ建立シ境内外ニ四十八ノ僧坊及田莊若干ヲ設クルニ至ル其後九百余年ヲ經テ殿堂僧坊兵燹ニ罹リ僅ニ葺爾ケル一字ヲ存セル而已ナリシガト當時國內戦乱多ク民心其堵ニ安セカリシヲ以テ再建ノ舉ヲ企ツルモノナク只其跡ヲ存スルノミ

鎌倉社ノ跡

大字金居原ニアリ土人云フ源頼朝ノ靈ヲ祀ルト  
出山塚

大字金居原ニアリ古鎌倉ノ落武者此地ニ匿レ居ル之ヲ鎌倉谷トイフ  
其跡ニ塚ヲ築キ標セシカ後之レヲ堀リ今其跡ヲ存スルノミ  
腰掛石

腰掛石ハ大字杉本ノ南二町許リノ道傍ニアリ弘法大師在世ノ祠此地  
ヲ遊歴シ此石ニ腰ヲ掛ケ火難ヲ封シ給ヒツリト云フ故ヲ以テ古來コ  
レヲ燈石ニ虧キ取リ遠近之レヲ使用セルニヨリ今ハ僅ニ其尖頭ヲ殘  
セルノミ(近江雜誌)

人物

出羽守重遠

出羽守重遠ハ大字杉本ノ出身ニシテ鎌倉幕府ノ寵臣ナリ本村及ヒ近  
郷ヲ知行シ子孫世襲シメリシ(東鑑)

僧慶幸

僧慶幸ハ大字杉本ヨリ出ダ六所神社ノ別當ナリシガ後鎌倉鶴ヶ岡八  
幡宮ノ別當ニ榮進セリ世ニ三位僧都別當ト稱スルハ此ノ人ナリト云

生業

本村民ハ農蚕ヲ本業トシ樵業炭焼業ヲ兼ヌルモノ多シ  
現住者職別表

種別	人員	種別	人員
農業	一二九七	僧侶	一三
工業	三五	定雇	五二
商業	九九	日雇	二九〇
雜業	六	樵夫	一五〇
教員	九		
村役場	四		
神官	一		

地質  
礫土(秩父古生層)

本村産物ノ主要ナルモノハ農産物ニシテ林産物工業物之ニ亞ク

産額表

米	四百三拾二石	麥	百五拾七石
豆	二百五石	雜穀	六百石
根菜	二千三百九拾貫	蔬菜	千三百三拾貫
蔬菜	千三百三拾貫	果實	千參百六拾貫
茶	三百八拾貫	桑	六萬貫
繭	三百四拾七石	生糸	三百二十二貫
木炭	拾八萬貫	木材	參拾萬貫
		薪	六萬壹千九百貫
		水産物	貳拾貫

交通

杉野道ハ高時村大字河合ヨリ來リ本村大字音羽ヲ經テ大字杉本平三谷川北岸ニ達ス  
 金居原道ハ杉野道ヨリ延キテ大字杉野、金居原ヲ經テ美濃國揖斐郡ニ

至ル

丹生道ハ大字杉本ヨリ丹生峠ヲ經テ丹生村大字上丹生ニ至ル

沿革

郷莊ノ沿革ハ逸トシテ詳ナラスト雖モ本村ハ往古中ノ莊ニ屬シ杉野郷ト稱シ分レテ上村中村向村下村ノ四ヶ村トナリ居リシガ明治廿二年市町村制實施ニヨリ杉野村ト稱セリ

大字杉本

本村ハ往古杉野下村ト稱シタリシガ明治十二年四月杉本村ト改稱セリト云フ

大字音羽

元川合ノ分郷ナリシガ中古別ニ音羽ノ一部落ヲ置キシモノナリト云フ

管轄

本村往古ハ何人ノ所領カリシカ詳ナラズ鎌倉幕府ノ時佐々木秀義近江ノ守護トナリ子孫世々之ヲ襲フ秀吉ノ孫信綱ノ二男氏信江北六郡ヲ領シ京極氏ト稱スルニ及ビ其治下ニ屬セリ裔孫高峯ニ至リ淺井亮

高  
時  
村  
誌

政之ヲ亡ホシ奪フ天正元年八月織田信長淺井氏ヲ亡ホシ羽柴秀吉ニ  
賜フ其後徳川氏ニ至リ慶長二十年乙卯井伊直孝ヲ彦根ニ封スルヤ本  
村ハ井伊氏ノ領地トナリ以テ王政維新ニ至ル

政之ヲ亡ホシ奪フ天正元年八月織田信長淺井氏ヲ亡ホシ羽柴秀吉ニ  
賜フ其後徳川氏ニ至リ慶長二十年乙卯井伊直孝ヲ彦根ニ封スルヤ本  
行ハ井伊氏ノ領地トナリ以テ王政維新ニ至ル

高時村誌

# 高時村誌

## 位置

本村ハ本郡ノ東部ニ位シ東ハ山脈ヲ以テ東淺井郡上草野村ニ境シ南ハ東淺井郡上草野村、田根村、小谷村、西ハ北富永村、木之本村、北ハ丹生村、杉野村ニ接ス

## 廣袤

極東西 凡壹里半

極南北

凡參里

## 反別及地價

田	九拾二町九反〇廿三步 四万六千〇八十七圓九拾五錢
畑	七拾壹町七反三畝拾七步 壹万五千二百四拾七圓六拾三錢
宅地	拾七町六反三畝七步 六千八百四拾三圓八拾七錢
山林	九百七拾三町五反一畝三步 四千二百二拾六圓三拾五錢



雜種 拾七町壹反七畝四步  
四百六拾九圓二拾九錢

合計 千百七拾二町九反五畝二拾四步  
七万二千八百七拾五圓〇四錢

其他 壹町九反壹畝壹步

總計 千百七拾四町八反六畝廿五步  
七万二千八百七十五圓〇四錢

舊藩時代石高

大見 百〇八石壹斗壹升八合

川合 百五拾三石壹斗

古橋 七百五拾七石六斗

石道 壹百四拾七石八斗九升

小山 二百五拾二石三斗

高野 四百三拾六石七斗七升五合

合計千八百五拾五石七斗八升三合  
戸數及人口

戸數 四百六拾九戸  
人口 二千七百三拾一人 男千三百八十八人 女千三百四十三人

區 劃

本村ヲ大見、川合、古橋、石道、小山、高野ノ六大字ニ分ツ

地 勢

本村ハ東西狹ク南北長クシテ東北部ハ山岳重疊シ西南部稍平地ヲ存スルノミ

山

己高山ハ本村ノ東部ニ聳エ本郡中ノ高山ニシテ大字古橋ヨリ山頂マ  
テ壹里九町アリ山頂ニハ伊香具坂神社及鷓足寺等アリ(神社佛閣參看)  
三頭山ハ己高山ノ北ニアリ山腹ニ巖窟(市二間奥行三間)アリ俗ニ石川三成  
ノ隠レシ所トイフ(古跡參看)  
高尾山ハ己高山ノ西南ニアリテ山腹ニ高尾寺及神前神社ノ社跡等アリ

川

官衙及公署

高時村役場

高時川ハ丹生村ヨリ來リ大字大見ヲ經テ大字川合ニ至リ杉野川ヲ合セ南流シテ北富永村ニ入ル初秋ノ頃船ヲ産スルヲ以テ名アリ近來河合及非明神ノ二大橋ヲ替架シテ交通ヲ便ニス

學校

高時尋常小學校

明治六年川合村ニ遂佐學校ヲ創立シ全九年ニ千草學校ニ改メ又十二年高時尋常小學校ト改稱セリ  
 明治八年六月古橋村ニ世城學校ヲ全十二月ニ小山村石道村ニ明用學校ヲ高野村ニ高野學校ヲ大見村ニ大見學校ヲ創立セリ  
 明治十九年十一月學制ノ改正ニヨリ從來ノ高時、世城、明用、高野ノ四校

神社

社號

祭神

社格

所在地

大見神社

素盞鳴尊  
 日座王  
 大座王  
 小座王  
 志美宿禰  
 沙本毘古  
 佐那比賣  
 波遲比賣  
 室毘古

式內乎禰  
 神社未定  
 村社

大見

佐波加刀神社

式內  
 村社

川合

ヲ聯合シテ古橋ニ簡易科東川小學校ヲ設置シ明治二十一年四月資格ヲ尋常科ニ更メ高時小學校ト改稱シ又高野ノ一區ヲ割キテ尋常科高野小學校ヲ分置セリ  
 大見ハ學制改正以來教育免除地ナリシガ明治三十一年四月高時尋常小學校大見分教場ヲ設置セリ  
 明治三十三年十月高時、高野ノ二校ヲ合併シテ高時尋常小學校ト稱シ  
 明治三十四年四月校舍ヲ新築セリ又明治三十五年十月大見分教場ヲ新築セリ

天比々岐神社	天太玉命	内式	無格社	高野
鶺鴒神	鶺鴒草葺不合尊	村社大見神	無格社	大見
鶺鴒嚴明神	鶺鴒草葺不合尊	村社大見神	無格社	大見
稻荷神	倉稻魂命	村社大見神	無格社	大見
八幡神	應天神皇	村社佐波加刀神	無格社	大見
八幡神	譽田別命	郷社與志瀨神	無格社	大見
春日神	天兒屋根命	郷社與志瀨神	無格社	大見
高靈神	古老傳伊非諾命	郷社與志瀨神	無格社	大見
秋葉神	按遠江國岐氣保神	村社伊波太岐神	無格社	大見
稻荷神	倉稻魂命	村社伊波太岐神	無格社	大見
八幡神	應天神皇	村社前神	無格社	大見
大見神社	大見神社ハ延喜年中ニ神社号ヲ改メラレタルモノナリ、神体ハ明治二			

與志瀨神社	神速須佐之男命	内式	郷社	古橋
伊波太岐神社	伊波太岐神	村社伊波太岐神	無格社	全
神前神	神速須佐之男命	村社	無格社	石道
八幡神	譽田別命	村社	無格社	小野山
高野神	大山祇命	内式	無格社	高野山
八幡神	譽田別命	村社	無格社	大見
水分神	速秋津產命	無格社	無格社	川合
伊香具阪神	古老傳伊波太岐神	未定内	無格社	古橋
椿神	猿田彦大神	内式	無格社	小山

十四年古器寶物取調之ノ際鑑査狀下附セラレ明治三十四年三月國寶ニ編入セラレタリ

佐波加刀神社

佐波加刀神社ハ元木村所有タル百間山ニ鎮座アリシヲ天平年中今ノ地ニ遷座ス(懷中古歌ニイカコナルモ、キ、山ノ谷水ノ濁ラヌ音ニナガルナルカナ)是本郡ニ類社モナキ頗ル古キ神社ニシテ舊彦根藩ヨリ延喜式内ノ標柱ヲ建ラレタル神社ニシテ維新ノ初ヨリ式内ニ決定セラル本社神像ハ古代ノ彫刻ニ罹リ明治二十四年七月三日付臨時全國寶取調局第四八二 号ノ鑑査狀ヲ交附セラレ全三十四年三月二十七日内務省第二 号ヲ以テ國寶ニ編入セラレタリ

天水別神

マモリ明神ト稱シ郡中古社ノ隨一タリ

高野神社

高野神社ハ人皇第四十五代聖武天皇神龜元年ノ創立ニシテ靈驗アル神社ナリシガ何ツノ頃ヨリカ神威衰ヘ境内荆棘ヲ生シ廢頽ニ及ベリ其後人皇第四十九代稱徳天皇寶龜二年ニ再興シテ舊ニ復セリト云フ

與志瀨神社

並ニ境内社

春日神社

八幡神社

譏テ氏神春日明神並ニ世代大明神ノ始メヲ稽ルニ皇朝神代ノ古ヘ跡ヲ此山ニ垂レ玉フテ殊ニ世代大明神ハ古代ヨリノ大社ナルコト類ナシ依テ此明神ヲシテ東西二里南北五里ヲ余領郷ト名ケタルモノナリ又湖北三郡ニ許多氏子アリタルハ 仲哀天皇元年二月天皇角鹿ニ御幸シ玉フ砌リ當地ニ御輿車ヲ止メ氏神並ニ世代大明神ノ社頭ニ勅使ノ參拜アラセラレ玉フタ時ヨリ出來タルナリ其時御輿車ヲ止メサセ玉フタ所ヲ今ニ輿車野ト字ナス后靈龜元年ニ各村ヨリ氏子二三人宛ヲ神前ニ集メ當社ニ係ル万端費用ハ各村ニ割當テ惡病除雨乞等執行ノ際ハ之ヲ評議ス后神龜元年八幡宮ヲ勸請シ世代大明神ヲ氏神ト崇敬スルコトニナリ氏神タル春日明神ト八幡宮ヲ脇社トナシタリ時ニ三月初 ノ祭リハ春日明神ノ祭日ナルモ全社内ニ鎮座故其日ヲ永遠ノ祭日ト定神明講ヲ企テ霜月二十日各郡村々ヨリ

初穂ヲ上納スル如キモ此時ヨリ始マル以來年々一二度ヅ、神前ニ集  
メ評議スルニ席ノ上下ヲ別ケル爲メ左右ニ櫻櫛ヲ植七五三ヲ張リ下  
ニ各村氏子ノ居ル所トス依之后櫻櫛ニ居場櫻評定櫻席別木等ノ名ガ  
殘ルモ此所以ナリト本社保存ノ古文章ニアリテ慶長七年迄在來セリ  
全年檢地ノ際ヨリ此例廢レタリ然レトモ大祭神事頭役ハ湖北三郡中  
崇敬信徒ニ頭役ノ差狀スルハ今ニ例トス本社明治九年十月廿一日村  
社ニ全十八年六月廿九日郷社ニ列セラレ

伊波太岐神社

伊波太岐神社ハ中古コリ法華寺ノ山内ニ鎮座セシガ明治二年法華寺  
ヲ廢シ住職復歸シテ神官トナレリ羽柴秀吉、增田長盛、淺野長古、淺井久  
政、板倉勝重等渾テ法華寺ヲ保護スベキ花押文章數通今尙保存セリ明  
治九年十月村社ニ列セラレタリ

伊香具坂神社

伊香具坂神社ハ神龜元年ノ創立ナリ

神前神社

神前神社ハ近江國伊香郡富永庄石道ノ氏神ニシテ創立年代不詳ト雖

モ延喜格式近江國伊香郡四拾六座ノ内一座也  
爰ニ人皇四拾代天武天皇ノ御宇白鳳三甲戌年五鬼ケ谷ノ豪傑王妃ヲ  
酒護セシ嗣リ役小角高尾山ニ臻リ神前大神ヲ崇敬シ暫ク爰ニ居テ占  
メ其后大和國大塚山ニ移ラセ給ヘリ降テ神龜元年甲子年行恭行者ノ古  
跡ヲ慕ヒ神前大神ヲ拜シ伺ラ高尾雞尾石道ノ三寺ヲ建立セラシ其後  
延曆拾五丙子年僧最澄ナルモノ社前ニ臻リ玉串ノ禮ヲ行フテ地ニ掃  
ス其杉若々トシテ繁茂セリ僧大ニ喜ヒ神前杉ト稱ヘ深ク崇敬シ給ヒ  
キ其傍ヲニ一字ヲ築キ是ヲ杉本坊ト號ケラル今モ近郷名高キ神前杉  
是ナリ周圍貳丈八尺餘枝四方ニ榮ヘ一本ニテ大森ノ形ヲ爲セリ抑モ  
本社ノ社跡ハ今ノ居住地ヲ距ル貳拾餘町丑寅ニ方リ宇三谷山ニ属ス  
ル小宇高尾山神前谷ト稱スル地ニ鎮座在シテ社殿能ク整ヒ靈驗亦著  
シク境内清爽洗フガ如ク遠近ノ老少踵ヲ躡テ茲ニ神靈ヲ仰ギ老松楓  
樹枝ヲ交ヘ雅客瓢ヲ腰ニシテ遊ビ神威旭ノ騰ルガ如シ然ルニ變遷ノ  
甚シキヤ修葺意リヲ來シ加フルニ文明十二庚子年正月大雪ノ禍ヲ蒙  
リ再造ノ議ヲ言フモノナキニ非ルモ協ハズ明應九年ニ至リ終ニ宇赤  
谷ニ遷シ建立ス

佛 閣	寺 號	本 尊	宗 派	所 在 地
	醫王寺	藥師如來	真言宗新義派	大見
	飯福寺	十一面觀世音	全	古橋
	石道寺	阿彌陀如來	全	石合道
	專覺寺		真宗本願寺派	古橋
	德恩寺		真宗大谷派	全
	龍泉寺		全	石合道
	空觀寺		全	小石合道
	長應寺		全	高野山
	正觀寺		全	全
	願超寺		全	大見
	地藏堂		全	見

七〇

地 藏 堂	地 藏 堂	藥 師 堂	藥 師 堂	藥 師 堂	觀 音 堂	觀 音 堂	大 日 堂	大 日 堂	樓 摩 堂
全	全	藥師如來	全	全	魚籃觀世音菩薩	十一面觀世音菩薩	大日如來	全	不動明王
川合	小川合	川合	古橋	古橋	高野橋	古橋	石合道	藥師堂境内佛堂	藥師堂境内佛堂
川合	小川合	川合	古橋	古橋	高野橋	古橋	石合道	藥師堂境内佛堂	飯福寺境内佛堂

**醫王寺**  
 醫王寺ノ開基專曉ハ當村林又五郎ノ出ニシテ幼ヨリ出家ニ志シ菅山  
 寺ニ登リ天台ノ門ニ入ル宿智ヲ自得シテ勉學凡人ニ超過シ常ニ自ノ  
 飛牛ヲ用テ自在ヲ得タリ(菅公ノ再生トイヘリ)人皇第八十九代龜山天皇ノ  
 御宇弘長二年入唐シ真言宗ノ門ニ入リテ三密ヲ究メ建治元年歸朝セ

七一

リ、其際唐本ノ一切經ヲ持チ來リ菅山寺ニ納タリ(此ノ經ハ後チ寛永九年將軍家ヨリ御懇學ニ付獻上セリト云フ、今ハ東京芝ノ増上寺ニ現存セリト)專曉年既ニ老イ永仁年中ニ當村ニ歸リ一庵室ヲ結ヒ隱居セリ(庵ノ跡ハ今小字ヲ專曉屋敷トイヘリ)亦菅山寺ヨリ藥師如來ヲ移シテ神社ノ傍ラニ一字ヲ建立シ紫雲山隣王寺ト號シ菩提別當ヲ兼テタリ現今ノ建物ハ寶永二年空山ノ再建ニ係レリ又前ニ專曉歸朝ノ際宋朝ヨリ持チ歸リシ旅行笈用ノ金胎兩部兩面ノ法曼荼羅現存セリ其合殿ノ十一面觀世音ハ其作者ト山緒ヲ詳ニセズト雖靈驗殊ニ著明ナルヲ以テ茲ニ明治二十四年古器寶物取調ベノ際美術ノ鑑査狀ヲ下附セラレ明治三十四年三月甲種四等ノ國寶ニ編入セラレタリ

空觀寺(石道)

空觀寺ハ延暦十八巳卯年僧最澄巳高山雞足寺ヲ中興シ專ラ天台宗ヲ弘メタリ全武拾貳癸未年一字ヲ草創シテ空觀寺ト名ケツレヨリ七百數十年ヲ經ル間ニ空寺トナリ草棘茫々タル寺地ヲ存スルノミトナレリ元禄三壬申年淺井家落城セシ時家臣八田助七郎家之戰死シ全第實家通世シテ僧トナリ(号淨覺)當地ニ來リ此地ニ據住シ其後本願寺教如

上人ニ歸依シテ代本ノ御影ヲ授與セラレタリ(裏書ハ同上人ノ眞筆ナリ)此時改宗シテ眞宗トナレリ

石道寺

古昔秦證法師自ラ十一面觀世音ノ像ヲ彫刻シ岩窟ノ石上ニ安置ス其後神龜三年行基菩薩堂宇ヲ建立シ賜フ延暦年間傳教大師聖者ノ遺跡ヲ尋チ來リ本尊十一面觀世音ヲ基トシ賜士持國天毘沙門天ヲ彫刻シ坊舎建立シ己高山石道寺ト号シ賜フ靈地ニシテ比叡山別院トモ稱セリ茲ニ桓武天皇並ニ平城帝等ノ御祈願所ナリ又應安年間後圓融天皇ノ御給旨再度賜リ國家安寧ノ懇祈ヲ抽スヘキ勅諭ヲ蒙リタル古刹ノ道場ナリ藏スル處ノ旌花蔓ハ唐ノ開元四年善無畏三藏法師ナルモノ大日經及旌二十八流花蔓十六面ヲ北天竺ニ得テ之ヲ我國ニ齎シ來リ大和國久米寺ニ藏ム然ル后寺僧之ヲ王室ニ獻ス桓武天皇ノ時ニ至リ之ヲ傳教大師ニ賜フ大傳當寺ヲ建立ノ刻リ其半ヲ留メ以テ法器トシ給フ

觀音堂(石道)

抑モ神龜元年行基菩薩此地ニ來リ高尾山ニ登リ神前大神ヲ崇敬シ居

所ヲ占メ十一面觀世音ヲ彫刻シ伽藍ヲ建立シ紅葉山高尾寺ト号シ玉  
フ以來輪煥タル堂宇等悉ク完備セシカトモ惜ヒ哉神護景雲ノ時ニ至  
リ本堂魔火ニ罹リ烏有ニ歸ス延暦年間傳教大師此地ヲ葺ヒ來リ神前  
ニ疎リ杉枝ヲ折リ地ニ挿シテ祭リ給フニ老翁來リ告テ曰ク曩ニ行基  
茲ニ堂宇ヲ開ク魔火ノ爲ニ灰燼トナル惜ムニ堪ヘズト再興ヲ乞フテ  
去ル之ニ依テ大師忽チ再造ノ志ヲ起シ即チ十一面觀世音ヲ彫刻シ伽  
藍ヲ建立シ給フニ神前ノ挿杉蒼々トシテ繁茂セリ大師之ヲ神前杉ト  
稱シテ深ク愛シ玉ヒ其傍ニ一坊ヲ建テ杉本坊ト名ケラル其レヨリ神  
前坊龍馬坊不動坊岩本坊東谷坊西谷坊池木坊瑞光坊等ノ坊舎ヲ興隆  
シ日夜神前ニ結跏趺座ニ觀念ヲ凝シ給フニ數々奇異ノ靈瑞アリ依テ  
常山号ヲ已高山ト改稱シ給フ是延暦十八己卯年ナリ(鎮見寺再興此時ナリト  
云フ)惟フニ此地ヤ古佛乘跡ノ靈地ニシテ峯巒巖然自ラ華藏ノ粧ヲナ  
シ境內高潤茶園蒼鬱トシテ恰モ仙界ノ如シ又行者屢敷獨古水蛙止メ  
池大師牛止ノ石橋等ノ名跡アリ物變リ星移リ人法共ニ衰ヘ修覆行キ  
届カス大ニ頽破ヲ來シ再造ノ議アリシモ葺葺日ヲ送リシ處文明十二  
庚子年正月大雪ノ爲ニ堂舎ハ潰倒ス且ツ從來氏子ハ字高尾山ノ麓ニ

居住セシニ明應七年ニ到リ悉ク此地ニ轉シ參詣ノ便ヲ圖ルト共ニ同  
九年神佛共高尾山ヲ下シ奉リ堂舎ヲ建立シ此赤谷ノ地ニ安置シ舊名  
ヲ以テ己高山高尾寺ト唱ヘ來リシモ維新ノ際イ寺号ヲ廢シ且ツ神佛  
混交相ナラズトノ御趣意ニ基キ明治十二年願濟ノ上字向山ニ移シ觀  
音堂ト稱ス

專覺寺(川合)

專覺寺ハ文明三年三月ノ創立ニシテ元天台宗ナリシガ良峯安世ノ後  
胤川合太郎宗慶剃髮シ東林寺ニ住シ淨土眞宗蓮如上人ニ歸依シ蓮如  
上人ヨリ專覺寺ノ号ヲ賜フ本尊阿彌陀佛ノ木作立像ハ古昔東林寺ノ  
本尊ニシテ行基菩薩ノ作ト云明治三十四年臨時全國寶物取調局第六  
〇八五号鑑査狀交附アリ

藥師堂(高野)

藥師堂高野神社ノ傍ニアリ已高山滿願寺ト稱ス本尊ハ藥師如來ニシ  
テ脇士ニハ日光月光ノ二菩薩及十二神將ヲ安置ス何レモ行基菩薩ノ  
靈作ナリ此創立ハ人皇五十代桓武天皇ノ御宇傳教大師此地ニ來リ藥  
師如來ニ祈願シ衆生化益ノ加護ヲ請ヒ玉フ願滿チ報恩ノ爲メ已高山



蒲願寺ヲ本寺トシテ巳高山願超寺全正觀寺等ノ七堂伽藍及四十八坊  
ヲ建立シ玉フ(現今ノ大字高野ノ宅地ハ舉テ寺坊ノ古跡ナリ)猶大師自  
身ノ像ヲ刻ミ爰ニ止メテ院季有縁ノ衆生ヲ度シ玉フ、其後元龜三年織  
田信長淺井長政ト攻戰ノ際兵燹ニ罹リ本寺ト高野神社ノミ灰燼ヲ免  
レ他ノ寺坊ハ悉ク烏有ニ屬ス其當時社寺再建ノ節別ニ一字ヲ建テ傳  
教大師自作ノ像ヲ安置ス(明治二十四年臨時全國寶物取調局ヨリ第六  
〇八六號ノ鑑査狀ヲ下附セラレ猶又明治三十四年國寶ノ列ニ加ヘラ  
ル)然ルニ願超寺正觀寺ノ二寺ハ其際再建スルモ轉宗シテ淨土眞宗ニ  
歸シ大谷派ノ末寺トナル今猶寺號ヲ改メズシテ現存シ餘ハ皆亡寺セ  
リ

正觀寺

正觀寺ノ開基ハ源義家十二世ノ孫新田義宗ノ子貞方ノ裔ナリ貞方相  
模守トナル武幹アリ驍射ヲ善クス元中年間足利氏滿ト戰ヒ敗走シテ  
陸奥ニ入り瀧ニ兵ヲ集メ再舉ヲ圖ル事覺レ賊兵來リ討ツ力戰圍ヲ衝  
キ箱根ノ山中ニ逃レ匿ル遂ニ捕ヘラレ害ニ遭フ其子貞方小字時千代  
相模太郎ト稱ス父滅スルノ時猶鐵櫛ニアリ家臣長崎小治郎ノ爲メニ

翠蓮セラレ土佐ノ高知ニ匿ル足利之ヲ索ムレモ獲ズ是ヨリ子孫世々  
此地ニ居ル遂ニ以テ氏トナス其後累代武臣タリ殊切ノ士多ク枚舉ニ  
逸アラズ然レモ六角高頼ニ從ヒ江州觀音寺城ノ戰及川中嶋ノ合戰ニ  
武田信玄ニ仕ヘ戰功ヲ立テシヨト其最ク高知信房ノ時ニ至リ髮ヲ  
削リテ大成坊宗徹ト號シ叡山ニ學ブコト十年山ヲ下リテ伊香郡富永  
高野村ニ住ス元龜六年淺井長政織田信長ト攻戰ノ際兵火ニ罹リ是時  
莊轉宗シテ淨土眞宗ニ歸シ名ヲ善海ト改ム之レ當寺ノ開基ニシテ其  
ノ系統今ニ絶ユルコトナシ委クハ高知氏ノ系圖ニ出デタリ

願超寺(高野)

願超寺開基ハ僧源了ニシテ神龜年間兵火ニ罹リ其際轉宗シテ眞宗大  
谷派トナレリ

飯福寺(古橋)

飯福寺ハ天平七乙亥年行基菩薩ノ開基ニシテ延徳二辛亥年實盛法印  
中興ナリ當寺ハ小谷城主淺井氏三代ノ祈願所ニシテ天正二年二月二  
十一日羽柴筑前守秀吉ヨリ境内山林除地御判物並ニ制札ヲ受ケタリ  
次テ元和五年九月十七日台徳院ノ御上意ニテ板倉伊賀守ノ御印書ヲ

受ケタリ

彌足寺(古橋)

彌足寺ハ神龜元甲子年行基菩薩ノ開基ニシテ延暦十八己卯年傳教大師高尾寺ニアリテ奇異ノ瑞ニ感シ當寺ヲ再興セリ淺井長政等三代ノ祈願所ニシテ干時天正二年十月八日豊臣秀吉ヨリ境内山林並祈禱谷御判物ヲ受ケ次ア元和五年九月十七日台徳院ノ上意ニヨリ板倉伊賀守ノ御印書ヲ受ケタリ古老云フ古ハ舞臺並翠ノ八坊庵室等アリシト云ヒ現今西行櫻淺井杉等ヲ存セリ明治三十三年本尊十一面觀音國寶ニ列セラル

徳恩寺

徳恩寺ハ慶長十年甲巳六月二十八日僧西了ノ建立セシ所タリ

龍泉寺

龍泉寺ハ元天台宗法花寺十坊ノ内龍泉坊ト稱スル里坊ニテ神龜元年僧行基ノ開基セシ所ナリ后幾百年ヲ經テ眞言宗ニ轉ス依之弘法大師御眞筆ノ紺紙金泥妙法蓮華經從地涌出品第十五二十七字讀全筆經切六行並ニ金台種子ノ蔓茶羅二幅ノ内一幅ヲ拜授ス爰ニ永遠ノ紀念トシテ

十一面觀世音ノ華蔓佛ヲ奉額シ裏ニ奉懸十一面御躰應永元甲戌極月十七日大願主彦次郎ト記シタルモノニシテ各今當寺ニ秘藏セリ后天正年中信長放火ノ爲メ寺院破却サレ漸ク本尊ヲ驚越ニ移シ土中ニ埋ミ奉ル依テ兵乱ノ火災ヲ免カレ給ヒヌサレト宗威ハ日々落地スルノ兆アリ爲メニ坊主還俗ノ相ヲ成シ日出洞達ト稱シテ隣師ヲ業セリ時ニ教如上人此地ニ來リ念佛堂ト云フ所アルヲ聞シ召サレテ故在ント立寄玉フニ洞達教如上人ノ高德ヲ感シ直ニ我來歴ヲ語リ專ラ上人ノ弟子トナリ名ヲ祐善ト改メ日ヲ經テ土中埋メ在マス本尊ヲ掘リ法花寺ニ安置シ淨土眞宗ニ轉宗ス以來宗威旭ノ昇ルカ如ク繁榮日ニ増シ又依之姓ノ日出ノ二字ト龍泉ノ二字トナ用ヒテ更ニ日出山龍泉寺ト稱シ玉ヒヌ此時本尊ニ阿彌陀ノ尊像(美術鑑査狀付安阿弥ノ作)ヲ勸請セリ時ニ上人ヨリ左ノ賜品ヲ拜授ス

一 親鸞聖人 御眞筆和讃 一首

源空在世ノソノトキニ金色ノ光明ハナクシム兼實博陸マノアタリ拜見セシメマヒケリ贊上ニ七ノ字ト丸アリ又斜ニ月輪殿御法名圓照ト記シ所々ニ朱点ノ付シタルモノナリ

- 一 運如上人 六字名号百代 一首
  - 一 寶如上人 御眞筆和讃 一首
  - 安樂佛國ニイタルニハ无上寶珠ノ名号ト眞實信心ヒトツニテ无別道故トトキタマフ
  - 一 全 上 人 御 文 章 三通
  - 一 全 上 人 三帖和讃正信偈 全部
  - 一 法 然 上 人 六字名号金泥 一
  - 一 宣 如 上 人 寺 号 一
  - 一 茶地紋沙袈裟 一
  - 一 金鋼茶地數珠袋 一
  - 一 懷 中 硯 袋 共 一
  - 一 硯箱 木地楠 丸形墨付 一
  - 一 狀箱 木地黒柿 金筋有 一
  - 一 印籠 梨子地 櫻摸様 一
- 今右ノ内多少檀中ニ秘藏セリ后本尊厨子内張ニニタマタノ運書ヲ許  
 カレ今現ニ其内張シアリ又來傳司御眞筆ノ不動明王(美術鑑査狀付)軸壹

藥師堂(古橋)

幅並ニ大日如來外二佛ノ華蔓等モ併セテ秘藏スル所ナリ  
 夫以レ佛敎ノ當レ機ノ興リ人法ニ依レ德ニ發ル故ニ知

藥師堂地ハ古佛行道ノ靈地藥師應化ノ地ナルモ其濫觴曾テ知ル人ナ  
 シ爰ニ樵夫草木ノ根ヲ穿テタルニ古來三間四面ノ堂宇ヲ構ヘタル基  
 礎歴然ト出テタリ時ニ靈龜元年二月僧行基諸國飛錫ノ砌リ當地ニ來  
 リ給ヒテ世代大明神ノ社頭ニ憩ヒ仮寐シ給フニ明神告ケテ曰ク予師  
 ヲ待ツコト茲ニ久シ此地ハ上古藥師奉佛ノ地ナルモ堂宇ハ魔火ニ罹  
 リ燒失セリサレト本尊ハ昆首羯摩天ノ妙作ニシテ空中ニ上リ給フ加  
 之是ヨリ東ニ靈地アリ四神之ヲ守ル師ニ非スンハ誰カ是ヲ拓カン哉  
 ト聞終リテ暫ク座禪ノ首ヘテ垂レ玉フキ是ヨリ西栗谷山ニ異光アル  
 ナ見テ終夜尋行五ツ岩ニテ藥師如來ノ尊像(后昆首羯摩天ノ作トイフ)ヲ得テ  
 比丘尼ノ菴ニ仮ニ安置シ世代明神ヲ鎮守トシテ號チ世代山ト名ケ又  
 岩ニ詫シテ戸岩寺ト稱シ玉フ今モ其地ヲ尼ケ谷ト云フ以來其化縁ニ  
 ヨリ栗谷山ヲ稱シテ異光山ト名ク全年五月今ノ地ニ一字ヲ興シテ遷  
 佛シ廣ク國人ノ歸依スル氏佛トシテ委細天聽ニ達シタレハ速ニ藥師

如來ヲ庄内ノ祈願所トナルノ勅定ヲ得テ殊ニ縣令邑長ノ歸依淺カラ  
ス依之塔頭ニハ岩本坊 阿彌陀坊 開壽坊 眞乘坊 道祥坊 長圓  
坊等六ヶノ僧坊ヲ構ヘ夫ヨリ神使熊ヲ草創シ給フ后大同元年弘法大  
師戸岩寺ニ來リテ四天王ヲ刻ミ相繼テ慈覺大師來リテ鐘樓堂經堂等  
ヲ造營シ大日如來ヲ彫刻シテ七間四面ノ本堂ヲ建立セラレシヲ尋テ  
惠心僧都來リテ阿彌陀ノ尊像ヲ刻ミ千終念佛堂ヲ建立ス時ニ堂宇八  
軒ヲ並ベテ二三十人ノ僧絶ユルコトナシ后宗威人法共ニ衰ヘ堂宇ハ  
兵亂ニ破却サレ漸ク佛像而已ヲ越ニ遷シ土中ニ埋ミタリ時ニ本尊  
ハ垢ケ池ニ埋ミ奉ル而シテ亂治マルニ隨ヒ土中ニ在マス尊像ヲ掘リ  
毀損堂宇ヲ修繕シテ一字ニ安置シタリ依之繁榮當時ノ十分一ヲ見ル  
能ハス今藥師堂大日堂觀音堂等ノ堂宇ニハ(優等美術)鑑査狀下付ナル暨  
佛三十有余軀アリ他ニ靈佛破損佛等枚舉スルニ遠アラヌ爰ニ明治元  
年座像ノ藥師如來ヲ飯福寺本尊ニ遷ス全三十四年三月氏佛藥師如來  
並ニ魔阿香佛(氏佛藥師如來ノ十二神將ナリ今三神將ヲ存ス)ヲ國寶ニ  
列セラレタリ又土地ニハ興車野槌ノ尾茶ノ木洞、七回リ、築子塚、越等  
ノ字アルハ古來大伽藍ノアリシヲ伺フノ端緒トモナルト爾云

觀音堂(古橋)

觀音堂ノ本尊魚籃觀世音ノ尊像ハ印度龍猛菩薩ノ彫刻ニシテ弘法大  
師ヨリ拜受セシ所ナリ堂宇ハ火災ノ爲メ狭少スサレド往古ノ材木ヲ  
用ユ傳來ニ付テハ道途ノ説聞クニ足ラス唯鑑査狀ノ優等品ト證明サ  
レタルヲ以テ凡作ニ非サルヲ知ル

古城跡(古橋)

興志滿神社境内ヨリ東南へ約二三丁ヲ距ル入龜山アリ其北ニ城ケ尾  
山アリ(一名鶴伏山トイフ)絶頂ニハ古來何人ノ築キタルヲ知ルニ山ナケレ  
ト城跡歴然トシテ其形狀ヲ存ス四周田圃ノ底ニハ裏ニ布目ノ形有ル  
欠瓦アリ又城跡ヨリ東へ一二町ヲ距ル馬嘯馬場アリ其名稱今ニ存セ  
リ又絶頂ノ西北隅ハ巖壁峻岨ナルニヨリ數多ノ屍ヲ投シタル所トイ  
フ此時山麓ハ屍ヲ以テ山ヲ築クカ如シト今ニ其地ヲ首地獄トイフ隨  
テ滔々タル谷川モ流血杵ヲ漂シ琵琶湖モ爲メニ其血ニ染シト古老ノ  
傳説アルモ其地形ニ視テ肯諾セザルヲ得ス而シテ本城ハ正月二十日  
糧食欠乏ノ爲メ陷落セシヲ以テ此日食欲ヲ減セハ年中饑餓ヲ免レサ  
ル前兆ナルト此日ヲトシテ飽食スルノ習慣ヲ爲セリ

古跡 (川合)

伊香山東林寺跡ハ天平年中僧行基ノ草創ニ係リ盛衰ノ寺院ニテ支坊ニ楞迦院西藏坊正藏坊等アリ建久年中良峰宗勝應永中火災ニ罹リ其後專覺寺ト改稱シ今ノ地ニ再造ス

アツ鳥坂 (川合)

北國街道木ノ本驛へ出ツル山路ナリ湖路名跡誌ニハアツトリ越トアリ淡海録ニハアツ鳥坂ト見ユレド本名ハアテ鳥居坂ニテ古昔佐波加刀神社一ノ鳥居檻ノ木ニテ造レル鳥居ノアリシ舊跡ナリ

猿渡橋 (川合)

淡海木間掘ニハ單ニ河合橋トアリ一ニハネ橋ト云淡海録及湖路名跡誌ニ川合ノハネ橋トアルハ是ナリ

古跡

陣屋ノ馬場

大字高野ヨリ壹里餘ノ東ナル高野山嶺東淺井郡界ニ壹町余四方ノ平地アリ陣屋ノ馬場ト云フ土地凹形ニシテ南方ニ石ヲ積ミ大砲ヲ構ヘタル跡判然スリ傳ヘ云フ淺井長政ヲ攻ムル時織田信長ノ陣所ナリシト

廟所

大字高野ノ北東ニ廟所アリ阿部ノ清明ノ手ニ成レルモノニシテ今ニ火葬ノ穴ニ石佛十二體ヲ存ス

五鬼ヶ谷 (石道)

五鬼ヶ谷ハ本村大字石道字馬場谷ニ属スル森々タル溪澗ニシテ其奥ニ五鬼ヶ柵ト稱スル平地アリ抑モ人皇三十八代天智天皇ノ御宇楓樹怪花ヲ開ク占者曰ク是レ不稔ノ兆ナリ丑寅ノ方ニ方リ名樵アリ之レヲシテ伐ラシムベシト五鬼ヶ柵ノ谷藏召サレテ之レヲ伐ル己ニシテ天皇崩御シ給ヒ大海人親王大友皇子ト御一戦アリ時ニ大海人親王ノ妃朝媛君御妊娠ニテマシマセハ中臣麿危急ノ中ヲ救ヒ奉リテ守護ヲ谷藏ニ命ス谷藏五鬼ヶ谷ニ鎮メ奉リケルニ谷藏貧苦ニ逼リ供護ノ途ナク鬼面ヲ冠リテ伊吹山ノ邊ニ出テ旅人ノ路用ヲ脅奪シ甚シキハ人ヲ殺害セシコト度々ナリキ斯ク無道ヲ業トス諺ニ人ノ眼ハ天ニ懸ルト惡鬼ノ谷藏貴人ヲ潛守スルヲ雲氣ニ現レ役ノ小角之ヲ悟リ山谷ニ攀シ登リ給フニ果セル哉一ノ茅屋アリ行者其家ニ入り玉ヘバ谷藏見ル見ル驚愕シ疊ニ伊吹山

ノ邊ニ於テ諸人ヲ務奪セント俟テ伏シタル時遭遇セシ一僧哉習練ノ  
谷ヲ以テ切ラントセシニ傍樹ニ打チ立チ抜カントスレモ抜ク能ハズ  
通ラバ轉溺セシメント兼テ架ケ設ケタル丸木橋モ力及ハズ最早此僧  
ニ發見セラシタル上ハ何サカ威ヤント惡業ノ綱ヲ解キテ其仔細ヲ語  
レバ行者モ忠君ノ爲メニ仁義ヲ忘レシ事ナレバ惡ト云フモ一善アリ  
然レモ茲ニ鬼面ヲ冠リテ五人ヲ殺害セシ事ナレバ汝ハ五鬼ナリト誠  
メ玉ヘバ谷藏行者ノ御威徳ニ感シ奉リテ弟子トナル五鬼ケ谷ノ名此  
時ニ始ルト云フ

〔五鬼ハ小角ニ事フル前鬼ナリ〕交ニ於テ役ノ行者ハ五鬼ケ谷ヲ去テ杖ヲ高尾山  
ニ留メ給フ今ノ行者屋敷是ナリ斯クテ媛君御分姫マシマセケレバ村  
民小豆園子ヲ作リテ祝セリト今ニ小豆園子ヲ名附ニ用ユルハ此時  
ヨリ始マルト云ヒ傳ヘリ爰ニ人皇四十五代 聖武天皇ノ御宇行基菩薩  
行者ノ跡ヲ慕ヒ高尾山ニ來リ一字ヲ建立シ佛像ヲ彫刻シテ紅葉  
高尾寺ト号シ給フ其山來ハ己高山高雄寺ノ縁起ニ詳ラカナリ

高尾寺ノ舊地(石道)

高尾寺舊地ハ大字石道字三谷山ニ屬スル小字高尾山神前谷ト稱スル

淺野家祖先

平垣ノ地ニ本堂鎮守ノ社跡行者屋敷其他坊舎ノ跡所々散在ス神前坊  
龍馬坊杉本坊不動坊岩本坊東谷坊西谷坊池本坊端光坊等ノ古跡アリ  
淺野彈正善正ニシテ豊臣家ノ臣タリ文祿五年十月廿一日付ヲ以テ甲  
州大石和筋土塚村ノ内檢地五十石ヲ食ム慶長年間徳川軍大坂攻戰ノ  
際大和國郡山ノ麾下ニアリテ出張所ニ將トシテ出陣シ戰敗シ其儘單  
騎逃去シ浪士トナリ當地ニ來リ鹿城氏ニ依リ居留レリ是ニ依テ軍中  
ニテハ誰一人知ルモノナク其後元和五年ニ至リ嗣子安藝ニ封セラレ  
シモ一旦浮浪ノ身トナリシ武士ノ意氣地ヲ以テ父子ノ對面ヲ爲サザ  
リシト云フ今猶知行日録大小ノ二口ヲ現存セリ

大刀ノ銘ニ 備前國住長船

小刀ノ銘ニ 山城守藤原國次

因ニ云フ彈正善正ハ茶道ノ名人ナリシヲ以テ本派本願寺大谷光照師  
(唯如上人)ヨリ茶會ノ催ニヨリ招待狀ヲ受タリ現ニ其招待狀及在城ノ砌  
自愛ノ茶壺(高サ二尺)等ヲ存セリ

人物

松田左近

松田氏ハ高野ノ人ニシテ夙ニ殖産興業ニ志シ田地貳拾町歩ヲ開キ水利ヲ謀ルタメ古橋ノ野尻ニ井堰ヲ設ケ松田井ト稱シ大ニ其ノ功ヲ奏セリ依テ昔ハ其功ヲ以テ償トシテ高野川原田地ヲケ無年貢タリシト云フ

宮部宇三郎

宮部氏ハ石道ノ人陸軍歩兵上等兵ニシテ勳八等ニ叙セラレタリ明治廿九年六月十四日陸軍歩兵中尉中村道明氏ノ指揮ニ從ヒ數十名ト共ニ台灣大坪頂ノ賊情偵察中賊ノ重圍ニ陥リ死傷者中村中尉以下拾數名アリ衆皆四散シ亦死傷者ヲ頗ルモノナシ此時ニ方リ只一人宮部上等兵ハ踏止マリ傷者二等軍曹吉村豊松ヲ救護シ賊圍ヲ遁レ出デントセシモ時可ナラザルヲ以テ傷者ト共ニ森林中ニ身ヲ潜メ賊ノ警戒懈ル待テ夕ニ至リ時ヲ揣リ闇夜ニ乘テ此死地ヲ遁レ出デ以テ其上官ノ危急ヲ救ヒ出セリ其行績誠ニ軍人ノ龜鑑トスベシ因テ賞トシテ金子若干ヲ臺灣守備歩兵第四聯隊第十一隊長ヨリ贈ラレタリ

小山政徳

氏ノ傳墓碑ニ詳ナレハ左ニ之ヲ寫記ス

明治十九年七月二十九日滋賀縣伊香西淺井郡長小山君卒于官既葬于其先塋之次二郡之人哀慕不已又謀建其碑遠寄收屬銘于余以余嘗令于滋賀縣能知其爲人也按君諱政徳初稱範右衛門小山氏考諱政恂也居近江國伊香郡小山郡君爲人謹敏有才幹慶應末國家多事君慷慨自奮奔走江澗間說其鄉土結義勇隊以備京畿之不虞明治維新之後歷任長濱犬上滋賀三縣遂擢爲伊香西淺井兩郡長嘗義社名曰相救社以通患難相救之道又設通會社者以開制產立業之基二郡產業之振起蓋自是始也君在仕途前後十有余年清勤守職終始如一日自治郡以來尤勞心民事遂至以患肺而君尙力疾上衙不日廢事病三月竟不起時年四十七配加納氏有三女尙幼全既知君之善爲郡又遣德使郡人追慕不已也是不可以無銘

身在畎畝 倦倦思君 奉職循理 盡心惠民  
爰念遺功 載勅貞珉 爰念遺功 載勅貞珉

明治二十一年七月

島根縣知事從四位勳三等能手田安定 撰

宗 範 良峰宗貞後胤 (川合)

長峰宗範ハ檢非違使正六位上后ニ從五位下ニ叙セラレ  
 後白川天皇ノ御宇近江伊香郡川合杉野而邑ヲ賜フ近江國北郡按察使  
 タリ保元二年八月十四日卒ス

長峰宗勝 (川合)

東林寺中興ノ施主ナリ宗勝始ハ源義經ニ屬シ一ノ谷八嶋ニ於テ戰功  
 アリ正治二年庚申九月十九日川合村ニ卒ス時ニ年八十九才ナリ法證  
 東林寺前左金吾覺翁月山ト號ス

生業

本村民ハ農ヲ本業トシ工商業之ニ次ギ傍ラ養蠶ヲナセリ

現在者職別表

種別	人員	種別	人員
農	一八六五	僧侶	一七
工	一二五	舟夫	一
商	一七二	漁夫	四
雜業	九	獵夫	二

職	人員	職	人員
醫師	二	樵夫	六九
村役	四	定雇	一五
場雇	五	日雇	一五〇
總計	二	稼	

地質 礫土 (秩父古生層)

本村産物ノ主要ナルモノハ農産物林産物ニシテ工産物之ニ次グ

産物	産額	産物	産額
米	千八百三拾四石	麥	三拾石
豆	三拾石	雜穀	三拾七石
根菜	五萬三千七百貫	蔬菜	二萬五百貫
蔬菜	一千八百貫	果實	二千五百十貫
茶	二千九百三十八貫	桑	十八万八千八百五十貫
繭	九百七拾九石	生糸	千百三十五貫



木炭 五万五千貫  
 石灰 三万貫  
 織物 百四十五反  
 醬油 三十石  
 種油 五石

木材 六万木(尺〇)  
 薪 五万五千二百貫  
 瓦 五百坪  
 酒 百十石  
 水産物 四十六貫

交通

里道

杉野道ハ杉野村ヨリ來リ川合ニ入り河合橋長二十九間ヲ經テ種島居阪ヲ越ヘ木之本ニ至ル  
 井明神道ハ北宮永村ヨリ來リ井明神橋長六十二間ヲ經テ古橋ニ入り川合ニ至リ杉野道ニ合ス  
 川東道ハ馬上ヨリ來リ石道ニテ井明神道ニ合ス

水路

高時川ノ水流ヲ利用シ筏ヲ作り材木類ヲ運搬スルコト少カラズ

附録

水害荒地復舊區制改良工事同盟會趣意書

明治二十八年九月ノ洪水ハ國家鉅萬ノ富ヲ耗竭シ慘毒ヲ極メタルコト蓋シ幾何ナルヲ知ラズ就中當地最モ劇甚ニシテ其ノ恢復ノ期ノ如キハ近キ將來ニ向テ得テ望ムベキ所ニアラス然レモ今ニシテ之レガ企畫ヲ講スルニアラズンバ細民窮鬼愈々多キヲ加ヘ益々悲境ニ沈淪シテ畢ニ救済ス可カラサントス抑々善後ノ經營タルヤ荒地復舊ヲ以テ刻下ノ急務ト爲ス若シ夫レ個的點々之レガ工ヲ起サシカ満目ノ砂漠境界一モ痕跡ヲ印メズ在來野取地圖ノ杜撰ト準據証憑ト爲ニ足ラズ復以テ耕土求ムルニ由ナク砂礫棄ツル處ヲ得ズ尙且溝渠開鑿道路修理ノ費途ヲ通算セバ得失相償ハサルハ論ヲ竣タス到底奏効ヲ見ルヲ得サル所ナリ願フニ國家ノ榮枯盛衰ハ共同力運用ノ利否ニ關ス苟モ此ノ際ニ於テ之レヲ忽諸ニ附スルハ眼前ノ難關ニ辟易シテ永久ノ長計ヲ通觀セサルニ在リ何ア茫乎沮喪徒ラニ日月ヲ曠フスルノ秋ナラン是ニ於テカ協同一致應當ノ事業費ヲ釀出シ以テ慘憺タル被害地ノ窪隆填錐ヲ共ニシ彼此耕土ノ採補ヲ圖リ各自所有權ノ歸着スル所ヲ定メ大ニ財用ト工役ヲ節セントス然リ而シテ更ニ之ヲ考察スルニ

從來ノ地形溝渠通路ハ方圓屈曲犬牙錯綜亂繩モ膏ナラズ是ヲ以テ灌  
漑排水ノ不利耕耘運搬ノ不便ナル將來經濟上豈之レヲ再ビスルニ忍  
ビシヤ故ニ今其ノ田區ヲ改正シ道路溝渠ヲ直通シ星散地ヲ併合スル  
ニハ耕地ノ面積ヲ増加シ且百般ノ便益ヲ與ヘンコト言ヲ須タスシテ  
爛ナリ況ンヤ方今耕地區制改良ノ美舉ハ農業經濟ノ大本トシテ夙ニ  
實業界ニ認識セラレ他地方ニ在ラバ既ニ良成蹟ヲ徵シタルアルヤ  
寧當地ノ如キハ實ニ好時期ヲ得タルモノニシテ還ク羨ソ今日ノ患害  
ハ將來ノ幸運ニアラサルナキヲ知ランヤ茲ニ乃チ天與ノ利益ヲ完フ  
セン爲メコレガ契約ヲ締結シ以テ生産ノ基礎ヲ興シ幸福ヲ永遠ニ享  
受セント欲スル所以ナリ

此工事ハ明治三十一年四月起工シ全三十二年十一月竣功セリ事  
業費總計五千八百餘圓ナリ

沿革

上古ノ沿革遼トシテ詳ナラズト雖モ往古大見川合ハ中ノ莊ニ屬シ石  
道小山谷橋高野ハ富永ノ莊ニ屬セリ

大字大見

創祖ハ未詳ト雖モ往古ヨリ山名ヲ大箕山ト云ヒ村名ヲ大箕村ト稱シ  
ト云フ

古今集ニ

「大箕山朝九も出て字根の野に  
明ぬ空にも田鶴なくなる」

ノ出ツルヲ見テモ知ルベシ因ニ記ス今「見」ノ字ヲ用フルハ維新ノ際崩  
ク誤リシニ依レリ以前諸印ニハ悉ク「箕」ノ字ヲ用ヒタリ

大字高野

古ハ富永ノ莊高野村ト号シ村ノ東方ニ式内高野神社並ニ巳高山滿願  
寺ノ社寺ヲ正面トシ周圍ニ敷七間高サ九尺ノ堤防及巾二間深壹間ノ  
外壕ヲ繞ラシ村落ノ中央ニ大門ヲ構ヘテ今ノ北富永村大字井ノ口村  
社前ニ御旅行全村大字保延寺ノ南方ニ御休所アリシト云フ

大字川合

木村古時南都春日社領アリ建武中足利高氏之ヲ山田弥太郎ニ與フ永  
正中淺井氏起ツテ之ヲ領シ子孫ニ傳フ天正元年八月淺井氏亡フルニ  
至リ羽柴秀吉ノ領地トナリ一柳直政小出秀政等之カ代官アリ全拾五

年豊臣秀次ノ提封トシ代官田中吉政ヲシテ代官ヲラシム文録元年石田三成ノ預地トナリシカ慶長五年關ヶ原亂后政權徳川氏ニ歸シ伏見役所ノ所轄トナリ小堀政一代官タリ元和五年非伊氏ノ所領トナリ子孫因襲シテ之ヲ領ス后上地トナリテ非伊氏ノ預地トナリ爰ニ天和年中本村ノ住民貳拾壹戸音羽谷ヲ開拓シテ部落ヲナシ本村ニ隸セシカ明治ニ至リ維新トナル全七年ニ分割シテ更ニ音羽村ト稱セシム今ハ杉野村ノ一大字トナレリ全八年河合郵便局ヲ設置サレタリ

大字古橋

往昔ハ古皇村ト稱シタリ后川(今高時川)西ニ分村シテ泉野ト稱シ二村ニ成リ來レリ又靈龜元年五月尼ヶ谷ヨリ今ノ地ヘ薬師如來ヲ御遷佛ニ付川(高時川)ニ古木ノ橋一夜ニ架設アリ不審ノ余リ村名トナシ古橋ト改稱ス是ヨリ川西ノ住民悉皆川東ニ移リタリ又現今保存シアル古文書ニハ靈龜年中以前ニシテ各地ヘ二三ノ分村アルハ明カナルモ記スニ足ラス唯實地ニ付神佛塚等ヲ視テ上古ヨリ草創シタル舊地ト知ル爲メニ爰ニ塚名ヲ記ス

- 鏡塚
- 鉾塚
- 勾玉塚
- 築子塚
- 經塚
- 奈良塚
- 二ツ兒塚

子袋塚 三ツ塚等アリ他ニ往古土人ノ住居セシトイフ塚夥シ既ニ高時學校(明治三十四年新築)敷地ヲ水準ニスルニモ大石ヲ用ヒテ三面ヲ圍ヒ上古土人ノ住居セシト云跡三ヶ所アリ各古物ノ陶器類並ニ鍔刀等二十五六点ヲ掘出シ其品現存シ居レリ

大字石道

其始メハ上古神速須佐之男大神此地ニ降臨シ居ヲ占メ給フヤ國津神々大神ノ威徳ヲ尊ヒ五百津岩村ノ如ク其大神ノ前ニ來集シ大石ヲ以テ居宅ヲ作り深ク服事シ給ヘリ此神々ノ御子孫漸々繁榮シテ一叢トナレリ而シテ其石窟居住ノ頃ハ第々其名ヲ石叢ト稱ヘタリシガ其后此神々ノ御子孫ノ御血正シク連綿榮ヘケレバ又石叢ニ御血ノ二音ヲ添ヘ石神血トテ改稱シ簡ヲ探テ石道ト書ス其根源タルニ茲ニ萌起スルモノナリ

大字高野

稱徳天皇天平ノ頃疫癘國中ニ蔓延シ患者枕ヲ駢テ臥ス天皇僧宥賢ニ勅シテ此地ニ於テ一週間醫王ノ秘法ヲ修セシメラレタリ則靈驗アリテ忽チ平癒ス依テ僧宥賢ニ高野山ノ勅額ヲ賜フ即チ是レチ村名ニ用

ヒシト云フ(神社部參看)

大宇小山

不詳

管轄

延暦ノ頃比叡山延暦寺ノ塔頭妙臨寺ノ領地ナリ鎌倉幕府ノ時佐々木  
 秀義近江ノ守護トナリ子孫世襲シ孫信綱ノ二男氏信北部六郡ヲ領シ  
 是ヲ京極氏トス裔孫高峯ニ至リ兵威漸ク衰ヘ家臣淺井亮政之ヲ奪ヒ  
 子久政ニ傳ヘ又其子長政ニ傳フ武威復衰ヘ織田信長起テ竟ニ之ヲ亡  
 シ豊臣秀吉ニ傳フ信長弑セラレシ後詳ナラズ降テ慶長七年壬寅徳川  
 氏興テ小堀新助ニ命シテ田圃ヲ檢察セシメ代官ヲ置テ之ヲ治メシム  
 寛永十五年戊寅迄彦坂九兵衛之ヲ掌ル同十六年己卯ヨリ承應元年壬  
 辰迄小野惣左衛門之ニ代ル同二年癸巳ヨリ延寶二年甲寅迄土井利重  
 (大炊頭ト稱ス)提封トナル同三年乙卯復幕府代官市岡理右衛門ノ治所ト  
 リ同四年丙辰ヨリ天和元年辛酉迄戸田忠昌(山城守ト稱ス)下野國宇都宮  
 城主ノ提封トナル同二年壬戌ヨリ同三年癸亥迄復幕府代官森本惣兵  
 衛治所トリ貞享元年甲子ヨリ享保七年壬寅迄其嗣土屋政直(相摸守ト稱

ス)ノ提封トナル同八年癸卯ヨリ同十九年甲寅迄其嗣土屋陳直(但馬守ト  
 稱ス)之ヲ襲フ同二十年乙卯ヨリ安永五年丙申迄子土屋篤直(能登守ト稱  
 ス)又之ヲ襲フ同六年丁酉土屋壽直(相摸守ト稱ス)又之ヲ襲フ同七年戊戌  
 ヲリ寛政二年迄子土屋泰直又之ヲ襲グ同年十一月ヨリ同三年八月マ  
 デ麾下士土屋主税治所トナル同七年ヨリ八年迄幕府代官石原清左衛  
 門之ヲ治ム同年七年ヨリ文政五年迄石原庄三郎職ヲ襲グ同年三月ヨ  
 リ天保十三年迄清左衛門職ヲ襲フ同十四年ヨリ都筑金三郎代テ之ヲ  
 治ム弘化元年ヨリ嘉永二年八月マデ多羅尾久左衛門之ヲ治ム又同年  
 八月ヨリ六年マデ清左衛門再ビ之ニ代ル寛政元年ヨリ慶應四年マデ  
 石原清一郎職ヲ襲ギ以テ王政維新ニ至ル

北  
富  
永  
村  
誌

# 北富永村誌

## 位置

本村ハ本郡ノ東南部ニ位シ東ハ高時村南ハ東淺井郡小谷村及本郡南富永村西ハ七郷村北ハ本之本村ニ接ス

## 廣袤

極東西 凡二拾九町

極南北 壹里拾町

## 反別及地價

### 田

二百六十七町一反一畝十二步  
十四万五千九百五十二圓四十二錢

### 畑

貳十七町七反三畝五步  
八千九百二十二圓八十九錢

### 宅地

二十七町五反三畝十五步  
一万六千五百二十六圓二十七錢

### 山林

百十三町八反一畝七步  
千三百三十六圓七十七錢

雜種 七町一反一畝十九步  
百五十五圓九十錢

合計 反別 四百四十三町三反〇二十八步  
地價 拾七万二千八百九十九圓二十五錢

其他 三十二町六反〇六步  
總計 反別 四百七拾五町三反七畝十四步  
地價 十七万二千八百九十九圓二拾五錢

舊藩時代石高

尼山 二百四拾二石

洞戸 百九十八石七斗六升五合

持寺 百五十二石五斗七升

保延寺 四百五拾石

井口 二千九百九十石四斗三升

雨森 千二拾五石五斗七合

馬上 八百十三石  
合計 五千〇七十二石三斗〇二合

戸數及人口

戸數 五百拾九戸

人口 二千五百〇一人  
男 千二百三十一人  
女 千二百七十一人

區劃

本村ヲ 尼山、洞戸、持寺、保延寺、井口、雨森、馬上ノ 七大字ニ分ツ

地勢

本村ハ東西ニ狭ク南北ニ廣ク全村殆平地ニシテ僅ニ大字洞戸、尼山ノ  
北方大字馬上ノ東方ノミ山脈ニ接續セリ高時川其東部ヲ南流ス

本村ニハ高山ナクシテ唯大字尼山、洞戸ノ北方ニ大黒山アリテ大字田  
部古橋ノ山脈ニ接シ大字馬上ノ東方ハ已高山ノ山脈ニ連ルノミ

川

高時川ハ高時村ヨリ來リ本村ノ東部ヲ流ル、大川ナリ南富永村トノ  
境界ヲ南流シテ東淺井郡ニ入ル大字雨森ヨリ大字馬上ニ渡ル處ニ妹  
川橋ヲ架セリ

### 官衙及公署

北富永村役場

大字井口ニアリ明治十八年七月尾山、洞戸、持寺、保延寺、井口、雨森、馬上ノ七ヶ村聯合シテ井口村外六ヶ村戸長役場ヲ設置シ明治廿二年四月一日町村制實施ニヨリ北富永村役場ト改稱シ明治廿七年八月廳舎ヲ新築セリ

### 學 校

富永尋常小學校

本校ハ明治七年ノ創設ニシテ當初寺院ヲ以テ仮校舎トセシガ其後再三改革ヲ經テ明治十七年ニ至リ雨森小學校保身小學校富永小學校ノ三校ヲ合併シテ富永小學校ト改稱セリ明治十九年學制ノ改革ニ從ヒ富永尋常小學校ト更稱シ簡易科ヲ併置シ更ニ二ヶ年ノ補習科ヲ設ケ馬上小學校ヲ合併シテ分教場トナス明治廿五年馬上分教場及補習科ヲ廢シ更ニ馬上尋常小學校ヲ設置セリ明治廿八年校舎ヲ増築セリ明治三十四年四月再ビ馬上尋常小學校ヲ合併シ現今專ラ新築ノ準備中ニ屬セリ

### 伊香農業補習學校

本校ハ明治二十九年五月五日日本村外十ヶ村組合ニテ創立シ明治三十三年四月一日伊香郡立トナレリ  
創立ノ當時ヨリ毎年百五十圓ツ、國庫補助ノ指令アリシガ明治三十二年四月ヨリ三百五十圓ヲ増加シテ五百圓ノ補助トナリ本年四月組合立ヲ解キ郡立トナリシモ結果更ニ昨年ヨリ向五ヶ年間毎年五百圓ツ、國庫補助ノ指令アリキ

社 號	祭 神	社 格	所 在 地
白山神社	菊理比賣命	社	尾山
日吉神社	國常立魂尊	社	洞戸
白山神社	菊理比賣命	社	持寺
白山神社	菊理比賣命	社	保延寺
日吉神社	大山祇命	社	井口
武速產速命	武速產速命	社	井口



天井走  
ノ落  
滿神神  
宮社社

菅不速光 清豐豐長廣安東意國魚眞巨麻宇房武不垂久鎌大許金  
原 魏 嚴 麻足八人見比人美 勢 智比 多是嶋米大  
道 別 天 呂朝朝朝朝朝朝 呂 呂 等 連連 朝朝連  
眞 詳 命 皇 卿臣臣臣臣臣臣卿卿卿卿卿卿卿卿連公公臣臣公

式內 村社天川命神社  
無 無 村 相  
格 格 社 殿  
社 社 社 殿

井尾馬企

口山上

〇九

天川命神社

親國御方伊常黑賀眞阿阿意御大弟天大雷巨巨綱大久神梨伊大宇天天天與天  
手食子禮磐田麻人毘麻富身小 見 大知狹 鹿宇 志 聞逆 香 御 佐 種 忍 兒 登  
子子子大 大 大 大 古 毘 乃 子 江 身 賀 津 津 屋 相  
大 大 連 波 連 大 夫 大 大 舍 古 宿 橋 通 臣 人 山 嶋 主 勝 臣 臣 臣 子 雲 根 魂  
公連公公連公公連公連卿連禰命臣命臣命命命命命命命命命命命命命命命命命命命

村

社

雨

森

一〇八

井ノ神社	御井神	無格社	全
意布良神社	枳稱命	式内無格社	馬
八幡神社	應神天皇	村社天川神社	雨
樹木神社	瓊々杵尊	無格社	洞
			戸
			上

白山神社(尾山)

白山神社ハ慶安元戌申年十月ノ創立ニシテ文政元戌寅年九月堂宇ヲ再建セリ

日吉神社(洞戸)

日吉神社ハ寶龜二年ノ勸請ニシテ明治九年十月村社ニ列セラレタリ  
 (附記)樹木神社ヲ明治十九年ニ本社ヘ合祀セリ全社ノ口傳ニ曰ク天長ノ頃怪異ノ事アリ村民大ニ驚キ此山ヲ奏聞セシニ勅アリテ大樹ヲ罪シ後チ伐リ株ニ神ヲ祭リタルナリト

白山神社(持寺)

白山神社ハ寶龜元年ノ創立ニシテ明治九年十月村社ニ列セラレタリ

白山神社(保延寺)

白山神社ハ寶龜元年ノ創立ニシテ明治九年十月村社ニ列セラレタリ

白山神社ハ創立年紀ヲ詳ニセズ明治九年十月村社ニ列セラレタリ  
 日吉神社(井口)  
 日吉神社ハ創立年紀ヲ詳ニセズ明治九年十月村社ニ列セラレタリ

天川命神社

天川命神社ノ古傳ニ曰ク太古天川命興發神命此地ニ天降り玉ヒ其神孫伊香津臣命梨迹臣命荒原ヲ開拓シ人民繁殖竟ニ本村ヲナシ祖神天降りノ地ナルヲ以テ天降リノ里ト稱セシテ後ニ雨森ノ文字ニ換用セリト平安ノ朝ノ初メ天川命ノ御祖先神及御子孫神等五十八座ヲ併祀セリ故ニ五十八座ノ御社ト稱ヘ後ニハ五十八社ノ權現ト稱シ、中臣藤原兩氏ノ御祖神總社トシテ春秋ノ祭祀等甚隆盛ナリシ、正慶二年五月六波羅破レノ際本國阪田郡番場驛ナル辻堂ニテ北條仲時等自盡セシカハ光嚴天皇皇子御二所ヲ率ヒ玉ヒ正親町内大臣公秀西園寺某卿等二三ノ公卿御信託ニテ天皇並ニ皇子等ヲ本社ノ神殿ニ隱シ奉リテ御難ヲ避レサセ奉リ(今モ社地ニ天皇御雨凌杉トテ老杉樹存在セリ)シト云フ由緒ニテ天皇ト皇子トノ御影(御木像)ヲ製シ奉リテ御相殿ニ安置シテ奉崇セシニヨリ本社ヲ王三座ノ御社トモ稱セリ當時正親町公秀公ノ暫ク居住セラ

佛閣

井ノ神社(尾山)

井ノ神社(井口)

八幡神社(雨森)

レシ舊跡今モ尙境内ノ前ニ在リテ中納言屋敷ト字セリ後明治十八年五月三十日天川命神社ト社號復舊改稱ノ允許ヲ受タリ(沿革參看)

井ノ神社ハ文永八年九月ノ創立ニシテ正保四年八月石村ヲ以テ再建セリ

井ノ神社(井口)

井ノ神社ハ文永八年五月ノ創立ナリ(古跡參看)

八幡神社(雨森)

八幡神社ノ口傳ニ曰ク古昔ハ本村ノ東ナル小字向山八幡ヶ谷ニ鎮座アリシヲ延慶年中今ノ地ニ移セルナリト中古鳥居ニ掲グシ所ノ尊朝親王ノ御筆神號ノ額字今尙保存セリ

法	立	寺	號	本	尊	宗	派	所	在	地
受	法	寺		阿彌陀	如來	眞宗	大谷派	尾山	洞	戸
全										

光	道	圓	寶	行	誓	淨	祐	芳	本	稱	善	圓	宿	保	願
明	教	照	林	信	順	念	善	澤	光	善	福	長	善	念	念
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
眞宗	佛	光	寺	派											
雨	保	全	全	全	全	馬	全	全	雨	全	全	全	井	保	持
	延													延	
森	寺					上		森					口	寺	寺

光圓寺	全	淨土宗鎮西派	全
億稱寺	全	眞宗本願寺派	井口
教信寺	全	眞言宗新義派	雨森
無動寺	不動明王	全	保延
理覺院	大日如來	全	保延
觀音堂	觀世音菩薩	理覺院境内佛堂	保延
觀音堂	千手觀世音	保延	保延
觀音堂	釋迦如來	保延	保延
大日堂	釋迦如來	保延	保延
藥師堂	藥師如來	保延	保延
阿彌陀堂	阿彌陀如來	保延	保延
阿彌陀堂	阿彌陀如來	保延	保延
虚空藏堂	虚空藏菩薩	觀音堂境内佛堂	井口
地藏堂	地藏菩薩	馬	上森

立法寺

立法寺ハ寛永十癸酉年三月ノ創立ニシテ同時ニ寺號ヲ公稱シ開基ヲ僧了順トナセリ

法受寺ハ寛永十九年ノ創立ナリ

頓念寺ハ永正三丙寅年ノ開基ニシテ祐心ノ創立セシトコロナリ

保念寺ハ慶長四亥年春宗智ノ開基セシトコロニシテ同年十月同人ノ創立ニカ、レリ

開長寺ハ元和元年卯八月ノ創立ナリ

善福寺ハ正徳三年ニ中興セリ

稱善寺ハ寛永元甲子年十二月十六日ノ創立ナリ

本光寺

芳澤寺

本光寺ハ康應元年僧祐順ノ開基セシトコロナリ  
 芳澤寺ハ順正ノ開基ナリ順正ハ元世々足利氏ノ家臣タリシガ忽然遁世ノ念ヲ生シ官ヲ捨テテ真宗第七代存如上人ニ歸依シ寛正元庚辰年當寺ヲ草創セリ其孫淨心(當寺ノ第三世)祖父ノ志ヲ繼ギ堂宇ヲ莊嚴ニシ寺門ノ榮ヲ極ム第十七世教音ニ至リ大藏卿正三位藤原保香卿當寺ニ歸依シ香花院トナシ金紋綱代紫幕及紫指貫ヲ敷シ猶子ノ契約ヲ結ビシト云フ當寺ノ門ハ高野家ノ寄附ニシテ其寄付狀ニ曰ク

御寄附ノ事

一 醫某門 壹ヶ所

右今度御寄附候處如件

寛政十年戊午十二月

高野殿家

德美駿河目

織田長門

近江國伊香郡雨森村

芳澤寺殿

祐善寺

祐善寺ハ寛永二年僧祐善ノ開基ナリ

淨念寺

淨念寺ハ寶曆四年戊辰月ノ創立ナリ

誓願寺

誓願寺ハ安永二年二月ノ創立ナリ

行信寺

行信寺ハ天文三年午五月ノ創立ナリ

寶林寺

寶林寺ハ天文十一年三月ノ創立ナリ

圓照寺

圓照寺ハ元東淺井郡安養寺村ニアリキ中興タル該寺住職智賢ト云フモノ明應七年十月病死シ其後百〇九年ヲ歷テ慶長十一年三月淺井長政ノ藩士東野佐馬之助ノ二男出家シテ釋信了ト稱シ當寺ニ入り其後四十九年ヲ歷テ承應四年未正月ニ至リ釋宗仁安養寺村ヨリ馬上村ニ移轉セリ

道教寺

道教寺ハ元和元年善休ノ開基ニシテ寛政九年善主ノ創立セシ處ナリ

光明寺

光明寺ハ長祿三戊寅年ノ草創ニシテ開基ハ僧善教ナリ

光圓寺

光圓寺ハ正徳六年二月釋圓西ノ創立ニシテ其際領主常陸國土浦城主土屋相摸守政直公ノ所轄ナリシガ後寺號通稱ノ難ニヨリ終ニ自盡セシト云フ其時用ヒシ九寸五分ノ劔並ニ諡號等今ニ存在シテ當寺累世ノ寶物トナセリ

億禰寺

億禰寺ハ元祿元戊辰年ノ創立ナリ

教信寺

教信寺ハ大永四年僧教善ノ開基ナリ

無動寺

無動寺ハ元天川命神社ノ別當ニシテ康正元年僧慶春ノ開基ナリ寛政年中住僧ニ延教ト云フ人アリ村民大橋氏(久太郎)ノ子ニシテ年甫メテ

理覺院

十三、日出山神照寺ニ入テ僧トナリ賢門院普應ヲ師トシ宗學ヲ修メ碩學ト稱セラル寛政十年正月二十三日遷化セリ年七十六法臘六十三

理覺院ハ延暦十九庚酉年ノ創立ニシテ天台宗ナリシガ中興ノ頃眞言

宗ニ轉シ寛文中燒失セリ、當院ハ井口彈正ノ菩提所ナリト云フ

觀音堂(雨森)

觀音堂ハ延暦年中僧最澄ノ草創ニシテ藏座寺ノ本尊ナリキ、袋掛ノ觀音(袋掛ノ名拾遺抄ニ出ツ)トテ頗ル繁榮ノ寺院ナリシカド天正年中淺井朝倉ノ兵等織田家ノ軍ト雨森陣ニ合戦セシ時、火ヲ堂舎ニ放チケレバ僧坊モ共ニ烏有トナリ漸次衰頽セリ

釋迦堂(尾山)

釋迦堂ハ元龜元庚午年三月ノ創立ナリ

藥師堂(持寺)

藥師堂ハ古昔松鏡山長徳寺ト號シ僧最澄一字ヲ建立セント雖元龜年中兵燹ニ罹リ其後再建セシコナシ

地藏堂(馬上)

地蔵堂ハ神龜五年ノ創立ナリ

不退寺

元大守井口ニ眞宗大谷派ノ不退寺アリシガ明治十八年十一月官許ノ上同字同宗派宿善寺ニ合併セリ

古跡

江南佐々木六角定頼ト淺井備前守亮政ト合戦ノ御阪田郡地頭山ニ於テ井口彈正義氏ハ亮政ノ身替ニ立テ切腹セリ時ニ大永元年九月十二日ナリ今地頭山ニ井口氏ノ墓ヲ存セリ淺井三代軍記ニ曰ク前略サシモニ高キ地頭山七重八重ニオツトリマクイッハシヤ亮政ハ敵ガトリタルト聞タマヒ暫ク猶豫シテ居クマヒシガ敵イヤカサニナツテ取マケハ亮政大橋伊部ニ向テ曰寄手打重テ取圍ミ一方打破ト云共終ニ追打ニ討ルベシ雜兵ノ手ニカ、ラシヨリハイザ腹切ベシト宣ヘハ大橋答テ申ケルハ暫ク御待成サルベシト存シ當ル事御座候シ間敵ヲスカシ申スベシト留ヲキ井口彈正ヲ引ノケ申ケルハ近比貴殿ニ申出シガクキ所ナリ併ナガラ此節ナラハ力ナシ貴殿亮政卿ノ御身替ニ立給ハハ士卒悉ク助命シ重テ運ヲヒラクベシ若サモアラバ御子

井口彈正邸址

供衆ノ中一人申請亮政卿ノ跡目トシ井口ノ家モ榮ベシ貴殿ヨカク頼事別ノ仔細アラズ貴殿ハ亮政卿ニ御齡ヨヒトシテ貌顔御物コシモヨク似タマフトテ小谷へ出仕ノ向リ遠侍ノ者共亮政卿ト取違禮ヲ正スト申ナリカク申我々モ能似サセタマフト存マレナリト泪ヲナガシテ頼ケレバ彈正義氏サモ心ヨゲニ打笑我一人切腹シテ大將並ニ各ノ御役ニ立ナラバ望所ノ幸也井口ノ家ノ儀ハ男子數多持タザレバ亮政卿ノ養下ナド、云事ハ存シモヨラヌ事ナリトカク大將ト相談シタマイテ能ニ頼ト計ナリ大橋シスマシタリト思亮政ノ御前ニ踏キ右ノ旨申上レバ亮政心得タマワザル氣色ナリ列士一先敵ヲ計密シテ見タマヘト種々再三ニ及ベバ亮政モ汝等計ヒテ見ヨト仰ケル下略

事夥多ナリ國主佐々貴頼綱之ヲ聽テ殺サントス大蛇其体ヲ變シテ更ニ殺ス能ハズ特ニ東條經方佐々貴神詞ニ祈ル滿三七日ノ夜神經方ニ告テ曰ク殺サントスル所ノ大蛇ハ昔日日本武尊東夷征伐ノ際伊吹山下ニテ退治セシ大蛇ノ神靈恨ヲ留メ尙人ヲ害ス國主之ヲ殺サント欲スル日ハ盤石ニ變ジ其岩蟪形ニシテ東南ニ向フ射殺スベシト經方夢覺テ國主ニ告グ頼綱大ニ悦ビ經方ヲ以テ案内トシ渡江淵ニ至リ家傳ノ征矢ヲ以テ件ノ石ヲ射ル果シテ大蛇ナリ(其長サ壹半回リトカイニ及ブ)龜山上皇淑威ノ余御製ヲ賜ハル

津地も木も吾皇の國をきは

そむきそむかん神のあはれさ

同八年夏江州一國ノ井水濁燥シ白田トナル或夜佐々貴大明神告テ曰ク國主先年殺ス所ノ大蛇ノ神靈毎田ノ井口ニ住テ吸水ス唯神靈ヲ祭レバ可ナリト之ニ依テ國中井口ニ神ヲ祭レリ是ヲ井口大明神ト号ス(今ノ井ノ神社コレナリ)國主頼綱東條經方ノ門葉ヲ以テ氏子トナス靈神忽チ怒ヲ止メテ守護神トナル是レヨリ經方ノ子孫皆井口ト稱シ井口ノ城主ナリ其後淺井氏ノ爲メニ佐々木家滅亡ス天正元年織田信長小谷

城主淺井長政ヲ攻ムル時井口彈正ハ一時敵ヲ欺謀スル爲メ長政ニ代リ討死シ井口家亡ビタリ

### 御雨凌杉

天川命神社境内ニアリ正慶二年五月 光嚴天皇此ノ木ノ陰ニ雨ヲ凌カセ玉フ故ニ此名アリ同リ壹丈八尺余

### 古戰場

雨森川原ニアリ天正元年八月淺井朝倉ノ兵士等織田氏ト戰爭ノ古戰場ナリ(淺井三代軍記)

### 人物

#### 大橋久兵衛

大橋久兵衛尉正信ハ雨森村ノ産レナリ性銳敏ニシテ義俠ニ富ム承應二年旱魃ノ際下井組ト爭論起リ遂ニ互ニ鋒刃ニ及ブ久兵衛即チ其子熊丸ト村民ヲ率ヒテ之ヲ防シ義ヲ見テ勇ナリ力ヲ勵マシテ而シテ進ミ遂ニ父子共ニ死ス時ニ承應二年七月廿二日ナリ本郡古橋村法華寺十代目住職賢宥ナルモノ久兵衛ト知已ナリシカハ其非業ニ死シタルヲ憐ミ堂宇ヲ建立シテ父子ノ靈牌ヲ安シ毎年法要ヲ營メリ法華寺ナ



ル今ノ護摩堂コレナリ後明治初年住職還俗スルニ及ビ靈牌ヲ大橋久兵衛ヘ贈ラレシヨリ全家ニテハ毎年七月二十二日法要ヲ營メリ猶村中乙子井ニ水便ヲ得灌漑シ得ラハ全氏ノ賜ナリトテ其徳ヲ忘レザル爲メ今ニ全家ノ夫役ヲ免シ毎年ノ法要ニハ香資ヲ贈リ居レリトツ

生業  
本村民ハ農蠶ヲ本業トシ傍ヲ商工業ニ從事スルモノ少カラズ  
現住者職別表

種別	人員	種別	人員
農業	二〇七六	僧侶	九四
工業	五二	商	九五
雜業	八	牧	八
定雇	一五	教員	三
日雇	七二	村役場	三
遊藝稼人	一	警	三

地質

壤土(第四紀古層)

產物

本村產物ノ主要ナルモノハ農產物ニシテ林產物工產物之ニ次グ  
產額表

米	四千六百〇五石	麥	百五拾一石
豆	百五拾七石	雜穀	二拾石
根菜	三万五千五百貫	蔬菜	一万〇五百貫
蘆果	九千八百貫	果實	四千三百五拾貫
茶	九百三拾貫	桑	十萬八千貫
繭	一千百〇一石	生糸	百四十五貫
蠶種	六百六拾八枚	木材	九千貫
薪	拾六万六千七百貫	瓦	一萬五千百二拾枚
織物	一千五百四拾五反	酒	四百二十五石
醬油	百七拾五石	牛乳	二拾六石

交通

國通

北國脇往還ハ木ノ木村ヨリ來リ木村ノ中央ヲ串通シテ南富永村大字  
柏原ニ入り又妹川橋(長八十九間巾十二尺)ヲ經テ馬上ニ至リ東淺井郡小谷  
村ニ入ル

里道

北國街道ハ木村ノ西境ヲ南北ニ通過セリ人車ノ往來頗ル頻繁ナリ  
井明神道ハ持寺ヨリ起リ二分シテ一ハ保延寺ヲ一ハ尾山ヲ通過シ共  
ニ井明神橋ニテ合シ高時村ニ入ル  
西街道ハ七郷村ヨリ來リ三ツ屋ヲ經テ井ノ口ニ至リ北國脇往還ニ會  
ス

沿革

南街道ハ南富永村ヨリ來リ井ノ口ニテ北國脇往還ニ會ス  
川東道ハ馬上ニテ北國脇往還ヨリ分レ高時川ノ東ニ沿ヒテ高時村ニ  
入ル  
本村ハ往時スベテ富永ノ莊ニ屬セリ  
大字井ノ口

龜山上皇文永八年辛未夏大旱井水乾燥シテ田面悉ク白クナリ人民ノ  
患フルヲ限リナシ依テ井ノ口ニ白幣ヲ祭リ尊敬セシニ忽チ井水滿々ト  
シテ白田モ一時ニ水中ニ没サレタリ爾來井ノ口大明神ト号シ隨テ村名  
モ神号ヲ以テ唱フルニ至リシト云フ(古跡參看)

大字洞戸

正應ノ頃山間ニ人民ヲ集ムルニヨリ洞戸村ト稱セリト云フ

大字保延寺

延暦年中僧最澄此地ニ來リ保延寺ト云フ一字ヲ創立シ給フ依テ村名  
モ保延寺ト名附ケタリト云ヒ傳ヘタリ

大字雨森

古昔天降ノ郷ト稱シ後世ニ至リ雨森ノ文字ヲ換用セリト云フ慶長九  
年ノ頃ハ専ラ雨森郷ト稱シ公私共通セリ

管轄

天正元年八月羽柴秀吉ノ領地トナリ全十八年豊臣秀次ノ領ニ附セラ  
レ文錄四年石田三成ノ預ル所トナリ慶長五年九月以來總草高ノ内二  
百二石五斗六升八合ハ舊幕府ノ旗下八郎右衛門ノ知行所トナリ徳永

南富永村誌

氏子孫因襲シ慶應四年マデ沿革ナシ他八百二十二石九斗三升九合ハ  
土井大炊頭利勝ノ所領トナリ寶永年中土屋相摸守ノ領地トナリ寛政  
三亥年幕府ノ直隸トナリ代官石原清左衛門之ヲ支配シ以テ王政維新  
ニ至ル

氏子孫因襲シ慶應四年マゾ沿革ナシ他八百二十二石九斗三升九合ハ  
土井大炊頭利勝ノ所領トナリ寶永年中土屋相摸守ノ領地トナリ寛政  
三年幕府ノ直隸トナリ代官石原清左衛門之ヲ支配ト以テ王政維新  
ニ至ル

南富永村誌

# 南富永村誌

## 位置

本村ハ本郡ノ南部ニ在リ東ハ高時川ヲ隔テ、北富永村ニ界シ南ハ東  
淺井郡小谷村、連水村西ハ古保利村、七郷村北ハ北富永村ニ接ス

## 廣袤

極東西 凡壹里 極南北 凡二十五町

## 反別及地價

田	三百四十八町〇三畝九步
畑	拾九萬七千四百六拾五圓九十七錢
宅地	四十五町三反〇十六步
山林	一萬六千〇三十圓二拾六錢
	二十六町二反二畝二拾三步
	一萬六千九百二十六圓十一錢

雜種	二町五反六畝十九步 二百〇九圓二十八錢
合計	反別 四百二十二町一反三畝七步 地價 二十三萬〇六百三拾一圓六十二錢
其他	二町四反一畝十四步
總計	反別 四百三十四町五反四畝二十一歩 地價 二十三萬〇六百三十一圓六十二錢
舊藩時代石高	
柏原	八百三十一石一斗一升八合
渡岸寺	二百七十九石五斗六升一合
落川	三百三十二石九斗一升二合
森本	三百三石五斗七升
高月	一千八百九十六石六斗
宇根	六百三十二石七斗九升七合
東阿閉	千三十四石三斗九升八合
合計	五千三百十石九斗五升六合

戸數及人口	戸數 五百四十二戸 人口 二千六百四十三人 男 一千三百十九人 女 一千三百二十四人
區劃	本村ヲ柏原、渡岸寺、落川、森本、高月、宇根、東阿閉ノ七大字ニ分ツ
地勢	本村ハ東西ニ廣ク南北ニ狭クシテ全部肥沃ナル平野ナリ 川 高時川(元高月川ト云フ)ハ本村ノ東境ヲ北ヨリ南ニ流レ東淺井郡ニ入ル田畑ノ灌漑皆此ノ川ニ據ル
官衙及公署	南富永村役場 大字高月ニアリ明治十八年七月一日柏原、渡岸寺、落川、森本、高月、宇根、東阿閉七ヶ村聯合シテ高月村外六ヶ村戸長役場ヲ設置シ同廿二年四月一日町制實施ニヨリ南富永村役場ト改稱セリ

學校

高月尋常高等小學校

明治六年十二月十五日高月村ニ一小學校ヲ創立シ篤潤學校ト稱シ柏原、渡岸寺、落川、森本、宇根、高月ノ各村聯合セリ同八年十二月ニ至リ柏原、渡岸寺、落川、森本ノ四ヶ村分離シテ柏原村ニ一校ヲ設立シ心洗學校ト稱セリ同九年六月落川、森本ノ二ヶ村ハ心洗學校ヲ分離シテ篤潤學校ニ屬シ同十年一月宇根村分離シテ宇根學校ヲ設立シ同十九年十一月三校合併シテ高月小學校トナシ同廿六年七月一日南富永村古保利村學校組合ヲ以テ本校ヲ創立セリ同廿七年四月校舍ヲ増築シ同三十四年三月三十一日學校組合ヲ解キ全時ニ阿閉尋常小學校ノ一部東阿閉ヲ通學區域トナシ純然タル一校ノ制トナシ高等科ヲ併置シ高月尋常高等小學校ト改メ又一棟ヲ増築セリ

八幡神社	祭神	天	皇	社	格	所	在	地
						柏		原

天吉神社	大山祇命	村	社	格	所	在	地
神高槻神社	高額比賣命	村	社	格	所	在	地
森本神社	天石門別命	村	社	格	所	在	地
春日神社	武甕槌命	村	社	格	所	在	地
乃伎多神社	天田別命	村	社	格	所	在	地
伊香具阪神社	素盞鳴命	村	社	格	所	在	地
佐味神社	豐城入彦命	村	社	格	所	在	地
井宮神社	高靈神	村	社	格	所	在	地
綾ノ神社	天兒屋根命	村	社	格	所	在	地
綾ノ神社	天兒屋根命	村	社	格	所	在	地
春日神社	菅原道真命	村	社	格	所	在	地
春日神社	天兒屋根命	村	社	格	所	在	地
龍神	高靈神	村	社	格	所	在	地
稻荷神社	倉稻魂神	村	社	格	所	在	地
豊國神社	豊臣秀吉	村	社	格	所	在	地

春日神社	天兒屋根命	村社乃伎多神社 境内	東阿閉
神明神社	天照大神	村社乃伎多神社 境内	全
廣峯神社	素盞鳴命	村社春日神社 境内	宇根

神高槻神社

神高槻神社ハ元宇根野ヶ原ノ内小字栗原ニ創立セリ往古槻ノ巨木アリテ鎮座ノ地ト云ヘリ天平年間一字ヲ建設シ村民崇敬セリ依テ舊村名ヲ高槻ト稱シタリ神高槻ノ社號モ亦ユノ謂ヒナラシメテ天正年間兵火ニ罹リ社殿荒廢シ後天保十年社殿ヲ改造シ又明治二十五年ニ改築セリ

森本神社

森本神社ハ白鳳十年ノ創建ニカ、リ古昔ハ盛大ノ神社ニシテ若干ノ社領モアリシト云フ神体ハ左衽ノ石像ニシテ蓋一千年以前ノ製作タルベキコト疑ナキガ如ク從テ其彫刻モ凡庸ナラズト云フ

乃伎多神社

乃伎多神社ハ創立年紀ヲ詳ニスルヲ得ザレド地名若クハ口碑ニヨレ

伊香具阪神社

ハ一千年以前ノ建立ニカ、ルト云ヒ又祭神天造日女命ハ安曇連ノ始祖ナリト云フ天正年中賤ヶ岳ノ役ニ兵變ニ罹リ社殿悉ク灰燼トナリシヲ以テ其後再建セリ西京神祇伯故白川資訓王ヨリ明治元年十一月ニ靈代ノ神鏡御來納ゼリタリ

佛閣

伊香具阪神社ハ元北宮永村大字馬上ノ小字天皇ニアリタリ本村ハ當時其地ヘ接續シタリシヲ以テ其郷端ニ紀念ノタメ一社ヲ奉崇セシモノナリト云フ中古ノ神社ノ前ヲ赤阪ト稱シ北陸諸國ニ交通スル要路タリシガ元龜年間朝倉義景淺井長政等ト兵ヲ合シテ織田信長ト戰ハントスル際騎馬ニ鞭ヲ神前ヲ乘過セントセシニ頓ニ健馬前マズ再ヒ鞭ヲ強クシ乘過セントセシカバ遠ニ落馬セリ流石ニ勇猛ナル朝倉大輔モ一考シテ神威顯著ナルヲ悟リ伏拜シ直チニ村役人ヲ召シ出シ本社ノ來歴ヲ聞キ厚ク尊敬スベキコトヲ說示シ下馬札禁止札ヲ白書シ建立セシメタリト云フコノ二札ハ現今尙保存スルトナ

寺 號 本 尊 宗 派 所 在 地



觀音堂	觀音堂	觀音堂	大圓寺	淨光庵	宗禪寺	淨教寺	淨照寺	淨滿寺	勝德寺	存法寺	真西寺	向西源寺	淨信寺	應因寺
全	十一面觀世音	全	觀世音菩薩	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	阿彌陀如來
				曹洞宗	曹洞宗	全	全	全	全	全	全	全	全	真宗大谷派
落川寺	渡岸	全	高	落	森	東	全	宇	全	高	落	渡	全	柏
						阿		根		月	川	寺		原

觀音堂	阿彌陀堂	毘沙門堂	藥師堂
全	阿彌陀如來	毘沙門天	藥師(如來)
宇	柏	高	全
根	原	月	

向源寺  
向源寺ハ傳教大師ノ創立ニシテ往古ハ天台宗ナリシガ慶長年間眞宗ニ歸屬セリ

淨教寺  
淨教寺ハ傳教大師ノ草創ニシテ往昔ハ天台宗ナリシガ慶長六年十一月眞宗ニ改轉セリ

宗禪寺  
宗禪寺ハ延元年中ノ創建ニシテ阿彌陀寺ト云ヘル巨刹ナリシガ中頃大和國十市郡味間村補岩寺ノ末派ニ屬シ天文年中又轉シテ小谷山醫王寺ノ末院トナレリ天正年中淺井氏ノ戰ニ寺門モ戰地ニ入り兵火ノ爲メニ伽藍ヲ失シ漸次衰頽セシヲ元和年中僧東興之ヲ再興セリ賤ヶ

觀音堂(渡岸寺)

岳ノ戰後豊太閤當寺ニ立寄ラセ給ヒシ由緒ニヨリ今ニ豊公ノ神牌ヲ安置セリ又當寺中興ノ代ニ井伊直孝領内巡視ノ途次ニ休憩セラレ又筑前黒田家ノ祖黒田長政幼少ノ時三ヶ年餘當村ニ在住セラレシ因ミニヨリ井伊黒田兩家祖先ノ靈牌ヲ安置シ忘日ノ回向ヲ常例トナセリ

觀音堂ハ往古慈惠山光眼寺ト稱セリ 聖武天皇天平八年諸國痘ヲ患フ上僧泰澄ニ勅シテ除災ノ祈禱ヲ爲サシメラハ泰澄乃チ一字ヲ建堂シテ十一面觀世音ヲ安置セリコレ即チ其温館ナリ後漸ク廢亡ニ歸セルヲ以テ桓武天皇延暦九年最澄律師之ヲ再興シ七堂伽藍ヲ建造シ多クノ佛像ヲ彫刻セリ爾來參拜ノ徒陸續歸依シ殿堂ハ輪奐ノ美ヲ極メ頗ル繁榮セシト雖多クノ年曆ヲ經テ漸次衰頽シ元龜元年淺井氏ノ兵疑ニ罹リ堂宇悉ク烏有ニ歸セルノミナラズ寺領二百七十三石ヲ沒収セラレタリ土民乃チ佛像ヲ土中ニ埋藏セシガ翌年豪族井口彈正ハ近邑ヲ併領シ土中ノ佛像ヲ討求シテ又堂宇ヲ修建シ木尊並ニ釋迦大日ノ尊像ヲ安置セリ本尊及脇立二尊ノ佛像ハ明治二十四年臨時全國寶物取調局ヨリ鑑査狀交付アリタリ其寫略左ノ如シ

鑑査狀

第三七八四號

滋賀縣伊香郡南宮永村

觀音堂

一十一面觀音立像 傳 傳教大師作 木 丈六尺五寸 輪光經二尺二寸 蓮座高三寸七分 燈牀

右優等ニシテ美術上ノ摸範トシテ要用ナルベキモノト認定ス  
明治二十四年七月三日

第三七八五號

一大日如來座像

右優等ニシテ美術上ニ要用ナルベキモノト認定ス

第四八一四號

一釋迦如來座像

右美術上參考トナルベキモノト認定ス

觀音堂(宇根)

觀音堂ハ乎彌森ニアリ神龜年間行基菩薩ノ開基ニシテ行基北錫ノ際  
特ニ春日神社ニ詣テ其信靈ヲ尊ミ衆生結縁ノ爲メニト自ラ救世ノ尊  
像ヲ刻ミ菴室ヲ結ヒ一字ヲ開キ慈光山冷水寺ト號セリト云ヒ傳ヘ又  
此尊像ハ已高山安置ノ尊像ト同木ニテ作レル靈像ナリトモ傳フ按ズ  
ルニ此ノ寺號ハ境内ニ靈泉アリテ甚ダ冷且潔傳ヘテ醒ケ非清水宇根  
清水ト對稱シ最モ賞セラシ故ナラン其後天平年間大伽藍ヲ增營シ  
幽莊ナル巨刹ナリシモ幾多ノ變遷ヲ經テ中古天正年間ニ至リ賤ケ岳  
ノ兵燹ニ罹リ堂宇悉ク燒燼シ寺院全滅ニ歸シ僅カニ寺號ヲ存スルノ  
ミナリシガ後チ當郡ノ私所トナリ第八番ニ列セラレタリ詠歌ニ曰ク

初花と詠めて置きし宇根の水

今は御法の色香とぞ思ふ

阿弥陀堂（柏原）

阿弥陀堂ハ柏樹山來光寺ト稱ス其口傳ニ曰ク弘仁年間ノ創立ニシテ  
居民凶災ノ時々至ルヲ恐レ佛門ノ信仰ニヨリテ免ル、ト信シ有徳ナ  
ル高僧ニ托シ開基セシモノナリ降テ天台宗トナリ爾來信徒ノ歸依厚

觀音堂（落川）

ク隆盛ヲ極メシガ時勢ノ變遷ニヨリ自然ニ廢弛シタリキ加之眞宗ト  
云フ一派興立セシニヨリ信徒ノ歸依頓ニ薄クナリ益々零落シ中古殆  
ンド雨露ダモ凌クベカラザル程ノ自壊トナリ唯一破堂ニ奉置シアリ  
シヲ村家柏原右門ト云フモノ深ク保存ノ不行届ナルヲ悲ミ巨費ヲ寄  
附シ改築奉遷セシニヨリ漸クニシテ今日ハ舊跡ヲ留メ得タルモノ  
ナリト云ヘリ其後寛文四甲辰年又改築セリコレ即チ現今ノ堂宇ナリ  
觀音堂ハ延暦年中傳教大師ノ創建ニシテ紫雲山嚴長寺ト稱シ昔古七  
堂伽藍ヲ有シ頗ル繁榮ヲ極メシヅ天正中淺井ノ兵火ニ罹リ舊境内中  
金堂ノ燒跡ニ堂舎ヲ營造シ僅ニ僧寺ノ形狀ヲ留ムト雖當郡觀音ノ靈  
塲三十三所ノ隨一第貳拾番ノ巡拜地ニシテ當國彦根城東佐土根山ナ  
ル億方期年實山天下清寧禪寺ノ開山堅光法師ノ巡拜ヲ始メシ處ナリ  
乳不足ノ者此觀音ヲ信仰スレハ必ズ靈驗アル故諸方ヨリ參詣スル輩  
多シト云ヒ傳フ

古跡

天石門別命神社ノ舊跡

大字森本ノ西南凡四町ヲ距ル田間ニ字別ト稱スル地アリ今森本神社ニ合祀セラル、天石門別命神社ノ舊跡ナリト云フ地券改正後大字字根ニ属セリ

大將軍松

大字東阿閉ノ中央ニ乃伎多ト稱スル小字アリ古昔神社ノアリシ處ナリトテ今ニ松樹ヲ以テ社趾ヲ表ス

正法寺廢跡

大字東阿閉ニハ古昔正法寺ト云ヘル禪寺アリシト云フ曹洞宗ニシテ越前永平寺ノ末寺ナリシカ寛永年中廢寺トナル其傳ハ洞壽院ノ年譜ニ出ツト云フ

父塚

大字東阿閉ノ東北ノ塚越ト稱スル小字ニ父塚ト云ヘル古墳アリ老榊繁茂シ面積百十三坪アリ口碑ニハ由緒アル如ク傳フ

片桐塚

大字高月圓通寺址ノ傍ニ片桐塚トテ約四坪ノ丘ニ古ヤ槐ノ樹アリ片

人物

孝子北村角右衛門

氏ハ高月北村治郎右衛門ノ二男ニシテ文政元年正月朔日ノ誕生ナリ明治元年同所北村角助ノ養嗣子トナル角右衛門、未ダ實家ニアルヤ父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ人ヲシテ感動措ク能ハザラシム晩年養父母ニ事ヘテ孝養至ラリル所ナシ且ツ農業ニ勵精シ老父ヲ背負ヒテ田畑ヲ見巡リ以テ親ヲ喜バシメ又他人ノ田地ト雖モ灌漑排水ノ勞ヲ吝マサル等ノ陰徳アリ事遂ニ官ニ聞シ明治元年十月彦根侯ヨリ米若干ヲ賜ヒ其門ニ旌表ス而シテ翌年復羽織(孝ノ字五ツ紋付)一領ヲ賜フ角右衛門幼名ヲ喜助ト云フ妻ハ左藏氏明治二年婚ス一男一女アリ男ハ先テ死シ明治十七年四月十七日角右衛門亦黄泉ノ客トナル享年六十七歳

旌表寫(木製)

伊香郡高月村

喜介

右ハ孝心奇特農業

精出シ候者ニ付

御褒美として御米

被下もの也

明治元辰年十月

義士前田俊藏(碑文ヲ寫ス原文漢文)

前田俊藏之碑

滋賀縣令從五位勳四等籠手田安定家額

明治十六年夏元ニ旱シ雨フラサルコト十旬餘溝渠水渴シ田疇龜拆稻田殆ソト將ニ枯死セントス八月四日高月宇根落川ノ三村民高時川ノ

水堰ヲ決シ以テ其田ニ灌グ蓋シ舊例ナリ然レモ水尽ク至ラス前田俊藏之ヲ憂ヒ片桐其内全政治郎等ト相談シ美濃國池田郡川上村山中夜叉ケ池ニ赴キ將ニ雨ヲ龍神ニ祈ラントス詞掌其神怒ニ觸レンコトヲ懼レ敢テ山ニ登ルヲ許サス俊藏等意ヲ決シ勇ヲ鼓シ攀攀五里餘方ニ池ニ達シ黙禱スルコト三日夜路ヲ越前ニ取リテ歸ル歸リ未ダ家ニ到ラズ大雨忽チ下リ溝澗皆滿チ澤敷村ニ洽ク枯苗悉ク蘇ス八月廿三日俊藏獨リ衣襟ヲ終へ出テ、白ヲ野神家上ニ居リ以テ神恩ニ謝ス會々警官來リ檢スルニ氣息未ダ絶々其故ヲ問フ舌梗ニシテ言フ不能ハズ腸血ヲ以テ傍ラニ在ル桐葉ニ指書ス字漫々シテ讀ム可カラズ即チ墨汁ヲ與フ書シテ曰ク彙ニ雨ヲ祈ル誓フニ性命ヲ以テ犠牲ニ供ス今其志ヲ果セル耳ト笑テ暎ス享年二十有八嗚呼何ソ其志ノ果ニシテ其行ノ烈ナルヤ俊藏ハ江州伊香郡高月村ノ人父ヲ仁右衛門ト稱シ母ハ竹内氏至性廉節父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ固郷舉テ其死ヲ愛ム頃日戸長某等村民ト相談シ一碑ヲ建テ以テ之ヲ後ニ傳ヘント欲シ文ヲ余ニ屬ス余職木郡長タリ固ニ其實ヲ知ル者乃チ書シテ以テ之ニ與フ

明治十七年六月

伊香西淺井郡長小山政徳撰  
滋賀縣一等屬 齋藤真男書

僧覺知

(附記)爾後毎年八月廿三日神酒ヲ碑前ニ供ス

古傳ニ云富永ノ莊ノ地頭職伊香左衛門ノ弟ナリト後僧トナリ延元年  
中慈母追福ノ爲メニ阿弥陀寺(今ノ宗禪寺)ヲ創建セリ

僧東興

東興ハ大字森本ノ人ナリ幼ニシテ彦根大雲寺ニ入テ僧トナリ後螢雪  
ノ功ヲ積テ宗ノ碩學ト稱セラル元和中宗禪寺ヲ再興ス朝廷特ニ勅シ  
テ本光禪師ノ號ヲ賜フ聲譽籍甚ナリ正保中其寺ニ於テ遷化セリ

阿閉元盛

初万五郎ト稱シ後甲斐守トナリ京極家ニ臣從ス甲斐守ハ本村ヨリ崛起シテ近傍ノ聚落ヲ撃テ靡カシ淺井家ノ旗下ニ屬シテ旭山ノ城主トナレリ子彦太郎五郎右衛門ハ姉川ノ役ニ戰没シ孫ノ代ニ至リ明智光秀ニ黨セシヲ以テ賤ケ岳戰乱ノ時終ニ其踪跡ヲクマシタリト云フ  
阿閉權之丞

維新前諸藩ノ志士唱義ノ始ノ膳所藩ニ刑死セラレシ阿閉權之丞モ亦  
甲斐守ノ裔孫ナリト云フ

山岡希顔 逸平 松煙

希顔ハ通稱ヲ禮藏ト云ヒ醫ヲ業トス賴山陽ニ從ヒ詩書ヲ能クス弟逸平ハ書ヲ岡本豊彦ニ學ビ其工ヲ巧ニス子松煙(初メ桃庵ト稱ス)父ノ箕裘ヲ繼キ新宮涼庭氏ノ塾頭ナリ其後振盪ノ改良ニ心ヲ用ヒ自ラ進デ斯道ノ熟達者ヲ備聘シ其模範トナス等實業ニ裨益スル處處ナカラズ其公共事業ニ力ヲ盡シタル事蹟數フルニ逸アラズ

中村如泉

如泉ハ通稱治兵衛東阿閉ノ人ニシテ舊徳川幕府ノ旗下間宮氏知行所ノ儒ナリ幼年ノ頃ヨリ書ヲ京都ニ學ビ素志ヲ達シ衆望ニ應シ歸リテ地方子弟ノ薰陶ニ從事シ且ツ村宰ヲ勤ムル事久シ當時社會ニ功蹟ヲ止ムル事少カラズ文化元年領主多年ノ精勤功勞ヲ賞シ永代苗字及帶刀ヲ免シ柳野中村高ノ内五拾石ヲ下シ賜フ

中村源六

如泉ノ養子ニシテ亡父ノ箕裘ヲ繼キ專ラ子弟ヲ教育ス天保八年村宰

ヲ拜命シ勤ムル事貳拾有數年是レテ以テ衆望アリ且ツ事務ニ熟達スルヲ窺フニ是ル領主積年ノ誠實勤儉教育怠リナキヲ褒賞シ紋付上下及紋付提燈ヲ下賜セラル文久二年門弟ノ者中村善學ノ碑ト題セル一大石碑ヲ建設シ巽日ノ師恩ニ酬フ碑ハ現今埋葬地ニ依然トシテ存ス

山岡與治兵衛

舊彦根藩ノ庄屋ヲ拜命シ次テ淺井郡高井川外數ヶ所伸入ヲ拜命ス兵衛ハ公務ニ對シ辨身粉骨ノ勞ヲ探ラサル事ナク在役爰ニ廿有數年嘉永五年藩主多年ノ正勤ヲ賞シ上下及帶刀ヲ免シ井伊直弼侯領内巡回ノ陸地方案内ヲ命セラレ其任ヲ全フス侯歸城ノ御盃壹組ヲ下賜セラル

嶋津土佐守

天明年間ノ人高月嶋津庄左衛門ノ次男ナリ京都ニ出テ、有栖川宮家ヘ立入り諸太夫ノ位ニ進ミタリト云フ

小倉翁

小倉翁姓ハ小倉名ハ與五郎守拙庵菴山ト號ス文化十二年宇根ニ生ル資性英邁ニシテ大度アリ壯年ノ頃ヨリ勸業ニ志シ衆望アリテ村宰ヲ勤ムルコト三十有餘年又特ニ養蚕ヲ督勵シ蚕種製造ニ熱心從事セラ

レタリ又農閑ニハ文學ヲ嗜ミ俳諧ノ道ヲ研鑽セリ弘化元年ヨリ與州ニ下リ蚕種ノ製造ヲ研究シ善良ナル蚕種ヲ得テ歸リ之ヲ有志者ニ分與シ或ハ販賣スルコトヲ業トス

嘉永四年ヨリ乾燥ノ地ニ刈桑ヲ栽培シ始メタリコレ本郡ノ刈桑畑ノ創設ナリ明治三年以來彦根縣ニ滋賀縣ニ蠶種ヲ獻シ賞金ヲ賜ハリタルコト數度ニ及ブ又明治八年東京勸業試験所ニ於テ全國養蠶家ヲ召集シテ桑園ノ培養及養蠶ノ飼育方ヲ研究セラレシ際本縣ヨリ推サレ同所ニ會セラレ其後實蹟ノ揚リタル功ニヨリ賞金ヲ賜ハリタリ後又秋蠶ヲ飼育シテ其成繭ニ升テ 皇太后后ニ獻上セシニ之ヲ嘉納セラレテ斜子織帛紗一面及金圓ヲ下賜セラレタリ明治十二年島根縣立養蠶試験所教師ニ明治十三年愛媛縣組合養蠶傳習所教師ニ明治十五年本縣勝所養蠶傳習所教師ニ明治二十年京都府天田郡立養蠶傳習所長ニ明治二十二年同郡下夜久野村外ニケ村組合養蠶傳習所長等ニ雇聘セラレ何レモ相當賞金ヲ拜受セラレタリ其他共進會品評會等ニ出品シテ賞ヲ得タルコト多シ

明治二十八年病沒ス年八十一

辭世

吹かは吹け花は済たそ秋の風

生業

本村民ハ農蠶ヲ本業トシ又商工業ニ従事スルモノ少カラズ  
現住者職別表

種別	人員	種別	人員
農	二二三六	僧侶	四九
工	五六	商	一三七
漁	四	雜業	六
官吏	一	教員	三
定雇	三〇	村役場	一
日雇	五〇	醫師	三
遊藝稼人	二		

地質  
地土(第四紀古層)

産物

本村産物ノ主要ナルモノハ農産物及工産物ナリ  
産額表

米	六千九百一石	麥	二十七石
豆	七十五石	雜穀	百四十五石
根菜	一万三千七百貫	蔬菜	二千六百貫
蒨果	八百五十貫	果實	五千貫
茶	六百五十六石	桑	十二万貫
繭	四千九十三石	生糸	五百五十一貫
蠶種	一萬九千七百枚 (六十八貫)	織物	千八百二十三反
酒	百七十六石	種油	四十六石
水産物	三十一貫		

交通

國道

北國街道ハ北富永村ヨリ來リテ大字高月ヲ貫通シ東淺井郡速水村ニ



至ル

北國脇往還ハ北富永村ヨリ來リテ柏原ノ東端ヲ貫通シ更ニ北富永村ニ入ル

里道

古保利村大字西阿閉ヨリ來ル道路ハ東阿閉ヨリ一ハ直チニ高月ニ至リ一ハ宇根ヲ經テ高月ニ至ルソレヨリ落川渡岸寺ヲ經テ柏原ニ至リ北國脇往還ニ會ス之ヲ南街道ト云フ

古保利村大字東柳野ヨリ來ル間道ハ高月ニテ北國街道ニ合ス之ヲ高月道ト云フ

鐵道 (北陸線)

北陸鐵道ハ本村ノ中央ヲ貫ク高月ニ停車場アリ百貨ノ運輸交通頗ル便ナリ

沿革

往古宇根東阿閉ハ古保利村大字西阿閉ト共ニ安堡ノ郷ト稱セシガ中古富永ノ莊ニ屬セリ他ノ各大字ハ従前ヨリ富永ノ莊ニ屬セリ

大字高月

元ト高槻ト云フ蓋シ往古祭神境内ニ槻ノ巨樹アリシニ依レリ然ルニ寛治年中大江匡房卿來郷觀月ノ詠ニ

近江なる高月川の底きよし

のどなき御代の影そうつれる

秋といへとの光をそへて高月の

川瀬の浪もきよくすむなり

トアルニ由テ高月ト改稱セリト云ヒ傳フ

大字宇根

往古宇根野ケ原ト名クル郊原アリシキ其腹崖ニ村居ヒシヨリ宇根ト稱セリ

管轄

大字高月ハ延暦年中延暦寺坊妙臨寺領地タリシガ永正十二年淺井備前守亮政ノ領トナリ天正元年淺井落城ノ後信長公ノ代官某ニ替リ天正十年光秀ニ歸シ最後ハ彦根藩ノ領地トナレリ  
大字宇根管轄ハ延暦ノ頃比叡山延暦寺ノ塔頭妙臨寺領地トナリ鎌倉ノ時佐々木秀義近江ノ守護トナリ子孫世襲シ孫信綱ノ二男氏信北部

六郡ヲ領シ之ヲ京極氏トス裔孫高峯ニ至リ兵威衰へ家臣淺井亮政之ヲ奪フ子久政ニ傳へ又其子長政ニ傳フ織田信長起テ竟ニ之ヲ亡ボシ豊臣秀吉ニ與フ信長弑セラレ後紛紜詳ニシ難シ德川氏ニ及テ本村草高ノ内二百十二石二斗四升ハ元和元年乙卯五月井伊直孝ノ管内ニ屬シ内四百二十石五斗五升七合ハ德川氏代官彦坂九兵衛小堀仁右衛門等代々支配タリ元祿四年辛未土屋政直之ニ代リ常陸土浦ニ封ズ子孫世襲シ孫篤直ニ至リ寛政六年甲寅德川氏代官石原庄三郎之ニ代リ支配セリ其一ハ石原清左衛門ニ至リ大津縣ニ併セ其一ハ井伊直憲ニ至リ王政革新ニ際會ス

大字渡岸寺ハ天文十一年淺井久政ノ領地トナリ阿閉三河守貞義代テ支配シ子孫木村久三ニ至リ慶長年間ニ逃ビ德川氏ノ代官彦坂九兵衛小野惣左衛門ノ支配トナリ同十年植村出羽守宗政ノ領地トナリ同十七年代官小堀遠江守政一ノ支配トナリ承應二年本多中務大輔忠勝ノ領地トナリ寛文四年石原清左衛門ノ支配地トナリ享保三年藤井伊賀守忠ノ支配ニ歸シ同十三年多羅尼四郎左衛門ノ領トナリ寛文元年鈴木小左衛門代リテ支配シ寛延二年多羅尼氏再ビ支配シ天明六年稻

葉土佐守正親ノ領トナリ子孫世襲セシヲ以テ明治維新ニ至ル

大字落川ハ佐々木秀義近江ノ守護ニ任セラレ子孫相襲ケ孫ヲ信綱ト云フ信綱三子泰綱氏信南地ニ分領ス氏信即江北部ヲ領ス是レヲ京極氏トス玄孫高峯ニ至リ家宰淺井亮政(備前守ト稱ス)專恣終ニ之ヲ奪ヒ子久政(下總守ト稱ス)ニ傳フ其子長政(備前守ト稱ス)ニ至リ武威稍ク振フ織田信長起ルニ及ンデ遠ニ之ヲ亡シ其臣豊臣秀吉公ニ與フ信長弑セラレ後紛紜詳ナラス德川氏ニ及テ慶長廿年乙卯井伊直孝掃部頭ト稱ス封ヲ彦根ニ受ケ子孫世襲シ以テ王政革新ニ至ル

古保利村誌

# 古保利村誌

## 位置

本村ハ本郡ノ南部ニ位シ東ハ南富永村南ハ東淺井郡朝日村北ハ伊香具村七郷村ニ接シ西ハ琵琶湖ニ瀕ス又別ニ湖ヲ隔テ、西ニ本村ニ属スル山林二百三十町三反八畝二十二歩アリ字向山ト稱ス

## 廣袤

極東西 凡三十町但向山ハ除ク 極南北 凡壹里半

## 反別及地價

田 三百五十一町八反七畝十四歩  
二十萬三千八百七十一圓七十三錢

畑 七十町三反六畝八歩  
一萬六千四百二十九圓壹錢

宅地 二十五町六反三畝二十九歩  
一万五千三百二十一圓九十七錢

山林	四百三十三町五反四畝二十六步
雜種	六町四反六畝十九步
合計	反別 八百八十町七反八畝六步
其他	地價 二十四萬一千二百五十一圓六十三錢
其他	四町三反八畝十七步
總計	反別 八百八十五町一反六畝二十三步
舊藩時代石高	地價 二拾四萬一千二百五十一圓六十三錢
東柳野	一千五百五十九石九斗八升七合
柳野中	四百九石三斗三升
西柳野	四百五十一石六斗三升八合
松尾	二百二十二石四斗八升一合五勺
重則	百八十四石九斗九升三合五勺
西野	一千七十五石七斗三升

熊野	六百七十七石四斗二升
西阿閉	一千五百二十一石八斗〇八合
片山	四十八石九斗六升七合
合計	五千七百五十二石三斗五升五合
戸數	五百五十二戸
人口	二千四百四十八人 男 一千二百〇七人 女 一千二百三十三人
區劃	本村ヲ東柳野、柳野中、西柳野、松尾、重則、西野、熊野、西阿閉、片山ノ九大字ニ分ツ
地勢	本村ハ東西狹ク南北長クシテ山脈ハ北部及西部湖岸ヲ劃リ余吳川其中央ヲ串流ス
山	賤ヶ岳ノ山脈北ヨリ來リ大字西野ノ北ニ至リテ二派ニ分レ一ハ東余吾川ノ岸ニ達ス一ハ本村ノ西部湖岸ヲ南走シテ山木山ニ至ル松樹繁茂シ多ク木材松藪等ヲ産ス

向山ハ大字片山ノ西琵琶湖面五十町ヲ隔テ永原村トノ境ニアリ薪桑等ヲ産ス近來大字片山ヨリ其麓ニ小屋ヲ構ヘ養蠶ヲナスモノアリ故ニ俗ニ此地ヲ小屋ヶ谷トモイフ

山本山ハ一名朝日山ト稱ス南及西面ハ東淺井郡朝日村ニ屬シ東及北面ハ大字西阿閉ニ屬ス頂上ニ山本氏ノ城址アリ

川

余吳川ハ七郷村ヨリ來リ本村ノ中央ヲ北ヨリ南ニ貫流シ山本山ノ麓ヲ繞リ東淺井郡朝日村大字尾上ヨリ琵琶湖ニ注グ堤防低ク川底淺キヲ以テ時々河水汎濫シテ人家ヲ浸シ田畑ヲ荒ス事アリ産スル所ノ鰻小鮎鮠等ハ其味美ナルヲ以テ稱セラル

港

片山港ハ琵琶湖ノ北部本村ノ西部ニアル一小港ナリ長十八間巾壹間有半ノ波除ヲ設ケ舟楫ノ出入ニ便ス

濱

大字西野ノ西木戸坂ノ麓琵琶湖ニ瀕シテ木戸ヶ濱アリ古昔年貢米ヲ盛ニ輸出セシ所ニシテ米稟二個今尙存セリ

脚

大字片山ノ北湖中ニ斗出スル一町余リアリ之ヲ黒崎トイフ其西方湖ヲ隔テタル向ヒ山ニ長尾崎アリ斗出スル一町ナリ

官衙及公署

古保利村役場

大字西柳野ニアリ明治十八年七月東柳野、柳野中、西柳野、松尾、重則、西野、熊野、西阿閉、片山ノ九ヶ村聯合シテ東柳野村外八ヶ村戸長役場ヲ設置シ明治二十二年四月町村制實施ニ際シ古保利村役場ト改メタリ

學 校

古保利尋常小學校

明治六年十二月柳野中村ニ遠聰學校ヲ創設シ東柳野村、柳野中村、西柳野村、熊野村ノ兒童通學セリ其後熊野村ハ分離シテ熊野學校ヲ建設シ明治十七年十一月ニ至リ他三ヶ村ニテ校舍ヲ新築セリ明治六年十二月西野村ニ知本學校ヲ創設シ西野村、重則村、松尾村ノ兒童就學セリ其後明治十年ニ至リ校舍ヲ新築セリ明治六年西阿閉村ニハ旭學校ヲ創立シ明治十八年九月ニ至リ東阿閉村晚春學校ト合併シテ兩村中央ノ

田崎ニ校舍ヲ新築シ尋常科阿閉小學校ト稱シ後阿閉尋常小學校ト改稱セリ

片山村ニテハ明治七年三月廣敷學校ヲ創設シ明治十一年ニ至リ東淺井郡石川村尾上村ト聯合セシガ後明治十九年ニ又分離セリ

明治十九年十一月知本熊野遠聰ノ三校ヲ合同シテ柳野中村ニ尋常科柳野小學校ヲ設ケ組合立トセリ同廿二年十一月ニ片山村ハ同組合ニ入リシモ通學ノ路程遠ク且阪路ノ險アルヲ以テ同村ニ柳野小學校分教場ヲ設置セリ

明治二十六年六月新學令實施ノ際柳野小學校阿閉小學校共ニ廢校トナリ全七月柳野中ニ古保利尋常小學校ヲ設ケ片山ニ全片山分教場ヲ設ケ阿閉ニ阿閉尋常小學校ヲ設ケ南富永村古保利村學校組合立トセリ

明治三十四年三月南富永村古保利村學校組合ヲ解キ西柳野ニ校舍ヲ新築シ阿閉尋常小學校片山分教場ヲ發シテ西阿閉片山ハ古保利尋常小學校ニ東阿閉ハ高月尋常高等小學校ニ通學シ純然ツル一村一校ノ制トナレリ

神社	社號	祭神	社格	所在地
賣比多神社	豐玉媛命	村社賣比多神社	東野	東野
大表神社	應神天皇	村社	柳野	柳野中
八幡神社	應神天皇	村社	西野	西野
大森神社	彦火々出見命	村社	松尾	松尾
大浴神社	武甕槌大神	村社	重則	重則
口枝神社	大山祇命	村社	西野	西野
天八百列神社	八爪入日子王命	村社	熊野	熊野
片山神社	大石之雀賣命	村社	片山	片山
甘櫛前神社	米餅春大使主命	村社	西阿閉	西阿閉
意波間神社	埴安姫命	村社	西阿閉	西阿閉
稻荷神社	眞若君	無格社	西柳野	西柳野

八幡神社	八幡神社	八幡神社	八幡神社
山神宮	白峰神社	熊野神社	八幡神社
衆田別尊	大山祇神	崇徳天皇	速野命
無格社	無格社	無格社	無格社
松野	西野	西野	熊野
全	熊野	熊野	熊野

賣比多神社

賣比多神社ハ相殿久留彌多神ト共ニ延喜式内ノ古社ニシテ古昔朝廷ヨリ神階ヲ授ケ奉リ給ヒシ正祠ナリシモ應永年中兵燹ニ罹リ又天正年中淺井氏ノ戦及賤ケ岳ノ戦乱打テ續キ社地數々戦鬪ニ入りシタメ稍衰頽シ今ハ僅ニ恒例ノ祭祀ヲ勤ムルノミ

(参考) 古事記伊那河宮(開化)段ニ曰ク  
御子日子座、生大倭王、大王之子、菟上王者、比賣陀君之祖

(附記) 當社ノ社人ハ元神祇菅領長上吉田家ノ執奏ニ属シ本郡社家中ノ舊家ニ算ヘラレシガ惜ヒ哉享保年中其家絶ヘ社傳ノ舊記モ此ノ時散乱セシト云ヒ傳フ

大表神社

慶長七年ノ古檢地帳ニ神主五郎右衛門ノ名受ケアリ按スルニ五郎右衛門氏ハ阿曾津本姓ハ伊香ニシテ伊香津臣命ノ神別ナリトゾ

大表神社ハ創立年紀ヲ詳ニスルコト能ハザレモ按ズルニ鎌倉時代以前ノ創立ナラン建曆年中三位僧都別當慶幸大般若經(現今京都帝國博物館ニ陳列保管セリ)ヲ寄附セリ此他數個ノ寶物古文書ヲ存セリ

八幡神社

八幡神社ハ元慶元年丁酉十一月十三日ノ勸請シテ明治九年十月村社ニ列セラレシ

大森神社

大森神社ハ大森山ノ麓ニアリ天平年中泰澄和尚ノ創立ニシテ萬民鎮護ノ明神ナリ早魃ノ時ニハ近郷ノ民潤雨ヲ乞フ舊例アリ

大浴神社

大浴神社ハ光孝天皇ノ御宇仁和元年ノ創立ナリ

日枝神社

日枝神社ハ創立年紀ヲ詳ニセズト雖滋賀郡阪本村官幣大社日吉神社



ノ御分靈ナリト云ヒ傳フ天文年中ノ火災及元龜年中ノ兵燹ニ罹リシヲ以テ其時日ヲ取調ブルニ由ナシ

片山神社

片山神社ハ由緒不詳ナレモ延喜式淺井郡片山神社ニ座アリ蓋此レナルベシ明治十年九月村社ニ列セラレタリ

意波閉神社

意波閉神社ハ天正中賤ケ岳戰陣ノ際兵燹ニ罹リ古記由來書等悉皆烏有ニ歸シタレバ創立年曆ヲ知ルニ由ナシ其後元文四年神祇官ヨリ左ノ神號ヲ拜受セリ

宗源

大明神

右宣號俵合大明神者

神宣之啓狀如件

元文四年三月九日

神祇備勾當長上位術兵衛督備從部兼雄

明治十四年二月一日村社ニ列セラレタリ

宣旨

近江國伊香郡西阿閉村

奉

神禰越嶽

(附記)

八幡神社(松尾)

社頭掲グル所ノ文和二年ノ扁額今ニ存セリ

八幡神社ハ嘉祥年中慈覺大師之ヲ創立セリ

佛

妙覺寺	隨願寺	圓行寺	覺念寺	教覺寺	充滿寺	了覺寺	恩覺寺	總勝寺
阿彌陀如來	真宗大谷派	全	全	全	全	全	全	全
東柳野	柳野中	西柳野	松尾野	重松野	西重松野	熊野	西熊野	阿野
所在地								

行	藥	觀	藥	地	地	地	地	地	觀	觀	觀	觀
善	師	師	師	藏	藏	藏	藏	藏	音	音	音	音
寺	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂
全	藥	觀	藥	地	地	地	地	地	觀	觀	觀	觀
師	師	師	師	藏	藏	藏	藏	藏	世	世	世	世
如	如	如	如	菩	菩	菩	菩	菩	音	音	音	音
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	菩	菩	菩	菩
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩
全	藥	觀	藥	地	地	地	地	地	觀	觀	觀	觀
師	師	師	師	藏	藏	藏	藏	藏	世	世	世	世
如	如	如	如	菩	菩	菩	菩	菩	音	音	音	音
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	菩	菩	菩	菩
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩
全	藥	觀	藥	地	地	地	地	地	觀	觀	觀	觀
師	師	師	師	藏	藏	藏	藏	藏	世	世	世	世
如	如	如	如	菩	菩	菩	菩	菩	音	音	音	音
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	菩	菩	菩	菩
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩
全	藥	觀	藥	地	地	地	地	地	觀	觀	觀	觀
師	師	師	師	藏	藏	藏	藏	藏	世	世	世	世
如	如	如	如	菩	菩	菩	菩	菩	音	音	音	音
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	菩	菩	菩	菩
來	來	來	來	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩	薩

真宗本願寺派

片 東 重 西 柳 西 西 松 西 片  
 山 野 則 野 中 野 野 野 野 野  
 山 野 則 野 中 野 野 野 野 野  
 山 野 則 野 中 野 野 野 野 野

妙覺寺

妙覺寺ハ果満山ト號シ真宗大谷派ノ助音地ニシテ始ハ天台宗ナリシガ川那邊正隆覺如上人ニ信從シ正應二己丑年真宗ニ改メタリ

隨願寺

隨願寺ハ往昔天台宗ニシテ長泉庵ト號セシガ長祿三己卯年僧教養改宗シ遊如上人ヨリ阿彌陀佛ノ木像壹軀ヲ附與セラレタリ(現今尙保存セリ)寛政十二庚申年七月舊地頭幕府ノ旗下間宮傳次郎ヨリ境内地及境外地草高三石六斗五升五合ノ地稅ヲ免シ間宮家累代ノ靈牌ヲ納メ永ク同家ノ守護寺トナシ地頭所ニ對スル特殊ノ待遇ヲ與ヘラレタリ本堂ハ元祿年中ノ再建ニシテ郡中古建築ノ一ナリ

圓行寺

圓行寺ハ柳軒山ト號シ元天台宗ニシテ叡山ノ末院ヨリシガ實如上人ニ歸依シ大永三年圓教眞宗ニ轉シタリ其後火災ニ罹リ堂宇烏有ニ屬シタリシガ僧正傳ノ時本願寺第十三世宣如上人ヨリ繪像ノ阿彌陀如來登幅ヲ賜ハリ延寶年中信徒ト協力シ堂宇ヲ再建シ寺號ヲ圓行寺ト受ケタリ第十九世ニ至リ本堂大破セシテ以テ衆庶ノ篤志ヲ募リ更ニ本堂ヲ建立シ明治十九年今ノ地ヘ移轉セリ

覺念寺

覺念寺ハ巳高山ト號シ往昔ハ松尾寺ト稱シタリ人皇五十一代 桓武天皇ノ勅願ニヨリ延暦二年傳教大師草創ノ舊地ニシテ大師自ラ靈木ヲ

伐リ十一面觀世音菩薩並ニ脇士不動明王毘沙門天ヲ彫刻シ七堂伽藍ヲ建立シ堂塔ハ高ク聳ヘ莖ヲ並ベシト雖世々ノ騷亂ニヨリ堂宇荒廢シ僅ニ一二ノ草堂ヲ殘スノミニ至レリ然ルニ文明五年本願寺第八世逆如上人北國下向ノ時常山ノ寂心律師上人ニ歸依シ改宗シテ淨土眞宗トナレリ其後宣如上人ノ頃親禪上人廿四輩第二十三番常陸國畑谷山唯信房ノ舊地覺念寺大彼ニ及ビシヲ以テ其舊跡ヲ常陸國ヨリ移シ親禪上人御自作ノ木像ヲ轉置シ已高山覺念寺ト改メタリ時ハ天正十一年ナリキ

教覺寺

教覺寺ハ清涼山ト號シ淨土眞宗大谷派ノ末寺ニシテ正長二年清涼坊ノ創建セル處ナリ清涼坊ハ俗名重則兵衛ト稱シ福田ヲ姓トセリ天智天皇ノ孫眞成公ノ裔ナリ眞成公二十世ノ孫ヲ義永ト云ヘリ延慶元年常村大森ノ地ニ移住シ大森太郎ト稱セリ十三世ヲ經テ清涼坊ニ至リ天台宗ヲ奉シ道場ヲ創建シ本尊阿彌陀如來脇士藥師佛ヲ安置セリ寛永二年宗誓法師淨土眞宗ニ歸シ正保年間宗玄法師ニ至リ道場ヲ再建セリ延寶五年本願寺第十三世宣如上人ヨリ佛像及寺號ヲ賜リシガ元

祿年間道場燒失シ寶永元年ニ至リ智慶法師堂宇ヲ再建セリコレ即現今ノ本堂ナリ

充滿寺

充滿寺ハ大千山ト號シ元ハ天台宗ニシテ山泉明寺ト稱シタリ天智天皇ノ御孫大友皇子ノ御子眞成公ノ裔宗信ノ創立ニシテ西野家代々ノ菩提所ナリ其末裔丹波守家澄ニ至リ天正年間本願寺第九世實如上人ニ歸依シ眞宗ニ改メ方便法身ノ畫像並ニ法號ヲ慶善ト賜ハリ一ノ總道場ヲ開キ守護佛トセリ其後大永元年九月家澄戰死シ嗣子秀方天正元年淺井氏滅亡ノ際總道場ヲ今ノ地ニ移シ父ノ菩提ノ爲メ剃髮シテ祐海法師ト號セリ第三世ノ孫正哲ノ代ニ至リ方便法身ノ尊像ヲ下賜セラレタリ時ニ延寶五年丁巳二月十五日ナリキ明曆二年七月十一日子宗誓ノ代ニ至リ寺號ヲ充滿寺ト賜ハリ延享四年三月四日子惠閑ノ時類焼ニ罹リ堂宇寶物其他書類一切烏有ニ歸セリ現今ハ堂宇ハ其後ニ建立セシモノナリ

了覺寺

了覺寺ハ熊渡山ト號シ元天台宗ナリキ天喜年中攝津谷松節長者ノ創

立セシモノニシテ其祈願所ナリ其際豆木ノ太鼓ヲ寄付セリ(今猶存セリ)  
後永正十一年淺井長政ノ戦乱ニ當リ兵火ノタメニ堂宇悉ク灰燼トナ  
レリ元和九年里ノ内ニ移轉シ寛文十二年僧秀願眞宗ニ改メタリ

覺勝寺

覺勝寺ハ東野山ト號シ元天台宗ニシテ阪田郡矢倉郷ノ内ニアリ往生  
院ト稱セシガ正安二庚子年道誓眞宗ニ歸依シ改宗シテ覺勝寺ト稱セ  
リ後同郡布施村ニ移リ元享元年再ビ東淺井郡丁野村ニ移轉シ淺井家  
落城ノ後東野左馬助ノ次男東野與一郎信成出家シテ眞淨ト稱シ覺勝  
寺ニ入り東野山ト號セリ慶長元年眞淨門徒ノ歸依ニヨリ今ノ地ニ移  
轉セリト云フ

恩覺寺

恩覺寺ハ旭松山ト號シ元天台宗ニシテ貞和二年ノ創立ニカ、リ當時  
ハ正華院ト號セリ本寺ノ舊記等ハ延寶二年本堂火災ノ際烏有ニ歸シ  
今之ヲ知ルニ由ナシト雖慶長年間ニ至リ伊勢國津ノ八三宅津右衛門  
ト云フモノ來リテ當寺ヲ繼ギ本願寺第十二世教如上人ニ歸依シテ淨  
土眞宗ニ改メタルモノナリ

藥師堂

藥師堂ハ建久年中藤原景隆祖先資通ノ護持佛ヲ以テ一寺ヲ創建シテ  
藥師寺ト號シ賣比多神社ノ神宮寺トナセリ然レモ星霜移換現今ハ唯  
僅ニ一小宇ヲ殘スノミ

觀音藥師堂

觀音藥師堂ハ龍頭山ト號シ普門寺ト稱ス大友皇子ノ末流三位重則卿  
ノ開基ニシテ後小松天皇ノ御宇應永二十年ノ創建ナリ本尊ハ正觀世  
音菩薩ニシテ傳教大師一刀三禮ノ靈像ナリト云フ伊香三十三所ノ隨  
一第拾番ノ靈場ナルヲ以テ京都ノ御室御所ニ參入シ賀正ノ儀式御忌  
ノ志納等古今退轉セズ又仁和寺宮殿下ノ御寄附ニ係ル菊御紋付ノ提  
燈壹對今ニ寶前ニ存セリ古ハ著名ノ大伽藍ナリシモ元祿年間祝融ノ  
禍ニ罹リ其後再建ノ舉アリシモ始シテ舊模ヲ存セズ明治十三年更ニ  
大森山ノ靈地ヲ擇ミ堂宇ヲ建立シ茲ニ移シ崇ム御室御所ヨリ下付ノ  
古文書及ヒ當山ノ由緒書類等數多保存セリ

藥師地藏堂

藥師地藏堂ノ本尊ハ傳教大師ノ自作佛ナリト云ヒ傳フ初メ西野補宮